

金光学園

やっなみ

2019.3



253号



卒業式





国際化教育の取り組み



春になり

2月の三連休の最後の朝、福山にも雪が積もり驚いた。「今年も暖冬」などと揶揄された冬将軍が、最後の意地を見せたのか。春はもうそこまで来ている。二週間もすると卒業式を迎え、高校3年生は巣立ち行く。我が娘もその一人であり、私も11年間の本校保護者の立場を卒業する。振り返れば多くの思い出もある。入学式で聞いた吹奏楽の音に親子共々衝撃を受け次男、長女と吹奏楽団に入部して、毎年の定演を楽しませて頂いた。学園挙げてのほつま祭。学級展示ではよくぞここまで調べたものだと圧倒され、KOPでは若い先生方の熱演に大爆笑させて頂いた。そんな一保護者としての私も最後の三年間は役員を拝命し、慣れぬ学園用語に戸惑いつつも、もう少しで任期が終わる。役員を受け良かった事。娘との共通の話題が増えた事。素晴らしき役員仲間ができた事。そして校長を始め多くの先生方と接し、学校とは、教育とはを考える機会を頂いた事。各種講演会にも聴講機会を頂いた。先日の脳科学者、茂木健一郎氏の講演では、「これからは子供達の多様性を認め育てる時代」が結論であった。もはや学歴偏重の時代ではないそうだ。その上にIOT社会がかぶさり来て、20年後には現在の職業の35%は無くなるという研究もある。囲碁や将棋の名人にAIが勝つても驚く事はない。車より早く走れる人がいないように、体力だけでなく知能も機械に勝てない時代が来た。そして労働者不足の続く日本では入管法も変わり、多くの外国人と共生する時代も近い。一民族一言語の日本人の国家観は薄れ異国文化も認めなければならぬ。世代、個性、そして異国文化、その全ての人々の多様性とIOT社会の中で、自分に適した職業を見つけ、いかに人間らしく生き抜く術を身につけるのか。それが、これからの教育と想い感じる。

役員としての3年間、「教育」は「共育」を、肌身で感じさせて頂いた日々であった。
 (金光学園やつなみ保護者会会長)

横藤田 晋

目次

巻頭言	1
第71回高校卒業式	2
道(23)	28
やつなみ保護者会のページ	30
生徒入賞作品	32
会報	33
メタセコイヤ	34
活躍おめでとう	35
活躍する卒業生	36
中2学年集会	38
中1学年集会	40
探求授業報告	43
学園随想(7)：佐藤 洋平	44
留学生紹介	46
国際化教育の取り組み	47
ある日のホームルーム	48
生徒会活動	49
学園だより	53
教室の窓から	56
編集後記	56

第71回高校卒業式

式辞

校長 金光 道晴



ご来賓の皆様方には、ご多用の中を、また足元のお悪い中を、金光学園高等学校卒業式にご臨席頂き、誠にありがとうございます。また平素から学園教育にご協力とお祈り添え頂いておりますこと、心から御礼を申し上げます。

保護者の皆様には、本日は誠にありがとうございます。18年前に、ご両親の大

きな感動の中で、元気な産声をあげたお子さんはこのように立派に成長されました。初々しくあどけない新入生として入学してこれたのも、過ぎ去ってみればついこの前のような気がいたします。

保護者の皆様には、こうしてお子様が無事学園生活を終えて、今日のよき日を迎えられたことを感無量の思いでおられると存じます。お子様の入学以来、今まで頂きました学園教育へのご支援とご協力に対しまして、心からの御礼を申し上げます。

さて、206名の卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。先程は学園生として最後の金光教本部広前への参拝をし、代表の水成俊介君が、これまでの御礼とこれからのお願いのお届けをされ、教主金光様から「本日はおめでとうでございます。ただいま代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培

卒業式の概要

2月28日朝8時5分、卒業生206名は、金光教本部広前に学園生徒として最後の参拝をし、水成俊介さんが代表で卒業のお礼と新しい生活へ向けての決意をお届けした。

第一部の式典は、ほつま体育館にて10時に開式。国歌斉唱の後、各クラス担任より卒業生が紹介され、金光道晴校長より総代の田所聖悟さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、佐藤乃武雄理事長より記念品として金光教典抄「天地は語る」と前金光教教主のお筆になる「学園の合言葉」の色紙が代表の久山明穂さんに贈られた。さらに、金光教教務総長 面川良典氏の挨拶、来賓祝辞（岡山県議会議員 渡辺知典氏）、送辞（杉田愛佳さん）、答辞（山下朋紀さん）と続き、最後に「金光学園歌」を斉唱して第一部は閉会した。

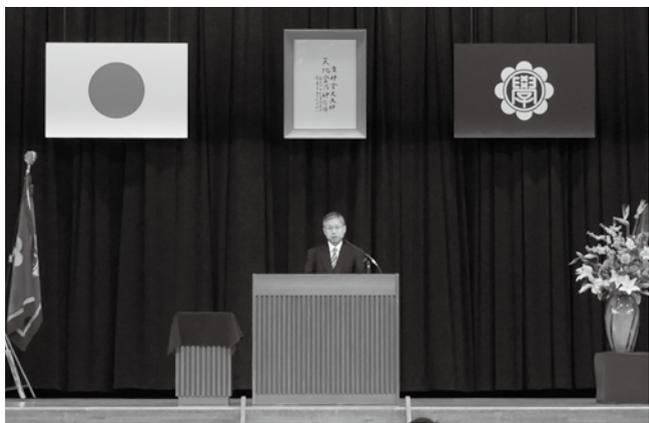
第二部の祝宴は、会場を小体育館に

われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になるすべてに礼をいう心をもって進んで行かれますようお願いしてやみません」とのお言葉を頂きました。

そして、平成最後の卒業生として、先ほどは卒業証書を頂かれ、めでたく高等学校第71回卒業生になられたわけです。私は、皆さんにこの1年間、宗教の時間で色々な話を聞いてもらいました。週に1回だけでありましたが、私にとっては、皆さんのスピーチを聞くのも楽しみな時間でありました。今日はその最後の宗教の時間のつもりでこの式に臨ませて頂いています。

そこで本日は、私が最近大変嬉しく思った2つの卒業生のお話をお聞き頂き、式辞に代えたいと思います。最初は、つい先週の22日の金曜日のご会合ですが、N君という卒業生のお母さんにお会いした時の話であります。ちょうど1年前には下の弟さんが、7年前に上のお兄さんが卒業したので、昨年まで12年間保護者としてお世話になったと言われるのであります。

子供さんの在学中、私は一度も直接お



話をしたことはなかったため、そのお母さんから、最初は自己紹介のようなご挨拶をして頂きました。

そして、「下の子供が昨年卒業後、この1年間、ずっとこれまでのお礼が言いたい、感謝の気持ちを伝えたい」と思っている

移して行われた。衆議院議員 柚木道義氏、やつなみ保護者会会長 横藤田晋氏からお祝いの言葉、ほつま同窓会副会長 大西恒夫氏から同窓会入会の歓迎の言葉を頂いた後、卒業生保護者代表 田谷麻美氏より記念品目録（小体育館舞台照明の改修）の贈呈が行われた。次に2代校長 佐藤金造先生のお歌に、金光威和雄先生作曲による「若き人よ」を斉唱し、お祝いとして音楽部コーラスが「愛に抱かれて」を、音楽部吹奏楽団が「デイト・パープル・メドレー」を、それぞれ卒業生の部員も交えて演奏した。そして、坂居輝星さんの先唱で食前訓を唱え会食を始めた。歓談の後、学園生活の3年間ないし6年間で振り返る「あしあと」が山本幸子先生、土谷香奈子先生、小松原悠希先生の司会のもと、高3学年団を中心に上演された。写真とナレーションで入学式、キャンプ、修学旅行、ほつま祭、体育会などの楽しかった日々を思いを馳せた。終わりに、保護者代表の池田真紀子氏、卒業生代表の荒島美音さん、学校代表の佐藤正俊副校長よりそれぞれ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒業生は学園を巣立った。



たのに、そのことが出来ないまま1年が過ぎてしまった」と言われるのです。その日は、私が金光教本部の月例祭という祭事後、お話の奉仕をする日であり、そのことをそのお母さんは偶然にお知りになり、金光教の信奉者の方ではないのに、月例祭にも参拝し、直接会ってお礼が言えたらということ、来てくださったというのであります。祭事やお話が終わった後の5〜6分ほどの立ち話でしたが、長い間お世話になったこと、2人の子供をお育て頂いたことなどの御礼や感謝の気持ちなどを一息にお話してくださいました。その中で、上の子は既に社会人として大阪で働いていて、つい数日前に帰省した時、お母さんに「卒業式の時にもらった『天地は語る』にはとてもいいことが書いてあるよ」と話したというのです。「天地は語る」は、このあと理事長先生から卒業生の皆さんに、卒業の記念品として合言葉の色紙とともに、贈呈して頂くものであります。

私にとって嬉しかったことは、N君のお母さんがわが子の卒業以来、ずっとお礼が言いたいと思いつけてくださり、それがやっと実現できたことと喜んでくださる。皆さんにとって、3年ないし6年という年月は長い人生の中ではわずかな時間かもしれないませんが、私は皆さんが、この学園生活の中で、多くのことを学ばれ、成長し、そして今後の人生への礎を築いてくれたことを確信しています。勉強はもとより、健康な体、大切な友、そして何より、人として大切な心を身につけることができたと思っています。どうぞ、この金光学園という母校で学んだことや合言葉の精神をどこまでも大切にしたいと欲しいと思います。「母校の心」を胸に力強く羽ばたいていってください。そして先程紹介をした卒業生のように、何年たっても「母校の心」を大切に卒業生であって頂きたいと思うのであります。

会も「食物はみな人の命のために天地の神のつくり与え給うものぞ、何を飲むにも食べるにも有り難くいただく心を忘れなよ」と全員で食前訓を唱えて会食がスタートしたのであります。どの会も大変和やかで、楽しいもので、当然学園時代の懐かしい思い出話に花が咲いていますが、参加者は学園で学んだことを共に喜び、母校に誇りを持ち、学園はとて良い学校だったと口を揃えて話されるのです。卒業して何十年も経つのに、母校で学んだ人としての生き方や考え方をずっと大切にされ、感謝の心を持ち続けておられるのであります。それぞれの同窓会に出席させていただき、私自身も嬉しくなり、元気をいただいたようなことでもあります。

以上2つの話は、どちらも「母校の心」を大切に持ち続けられている卒業生から頂いたものであります。

ところで、昨日は、卒業生の皆さんが卒業にあたって詠んだ一人ひとりの短歌や、ほつま新聞に掲載された文章を、ゆっくり読ませていただきましたが、つい笑いがでてるような微笑ましいものもありましたし、胸が熱くなるようなものも

ていることに加え、社会人になった息子さんが卒業の記念品の「天地は語る」を折に触れて開いてくれていて、お母さんに「とてもいいことが書いてあるよ」と話したということでもあります。

卒業しても母校の心をずっと大切にしてくれていることを聞かせてもらい、私の方が心から喜ばせてもらったようなこととでありました。

もう1つ嬉しく思ったこととお話させて頂きます。それは最近私が出席した卒業生の同窓会の話であります。このことは今日お配りしたほつま新聞にも、少し書かせて頂いていますが、私は昨年の11月下旬から今年の1月の中旬にかけて、4つの学年の同窓会に出席させて頂く機会を得ました。11月の終わりには、卒業して約60年になる、数え年77歳の期の喜寿を記念する同窓会、お正月の2日には48歳になる、卒業30周年記念の期と50歳の年齢の期の同窓会、1月13日には2年前に卒業し、成人式を終えたばかりの新人の同窓会に出席させて頂きました。年齢的には、ちょうど祖父母世代・親世代・孫世代にあたり、当然それぞれ年相応の雰囲気がありました。どの同窓

とご多幸を心から祈っています。入学以来、折に触れて繰り返し、繰り返し申してまいりましたが、最後にもう一度「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」の言葉を贈り式辞といたします。

送 辞

在校生代表 杉田 愛佳



やわらかな日差しの中に、ほのかな春の香りが漂う季節となりました。このよくな良き日に旅立ちの日を迎えられた卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございませう。在校生一同心よりお祝い申し上げます。先輩方と過ごした日々は、私たちが在校

生にとってかけがえのない思い出です。振り返ってみますと、先輩方はほつまつ祭において1年生の時に展示の部で1位と2位を、2年生の時には演技の部で1位から3位を独占されました。各展示や演劇の出来栄えは魅力あふれ、私たちのお手本となるものでした。特に演技の部では先輩方の笑顔溢れる演技や、部活動との両立を工夫しながら素晴らしいものにして協力して頑張っておられた姿が印象的で、その姿から私達も先輩方のように部活動と両立し、見る人に感動を与えられるようにと頑張ることが出来ました。

先輩方は学習面においても努力され、探究授業では様々なゼミ活動に熱心に取り組まれました。特に『JSEEC高校生科学技術チャレンジ』で文部科学大臣賞を受賞され、その後アメリカで行われた国際大会『ISEF国際科学技術フェア』で第4位の成績を残された先輩もいらっしゃいました。

また、部活動でも輝かしい結果を残されました。運動部では少林寺拳法部・陸上競技部・卓球部が全国大会への出場を果たし、少林寺拳法部は男子規定演武の

部で第3位に、陸上競技部もインターハイの八種競技で第3位に輝きました。バレーボール部も中国大会へ出場されました。文化部では、書道部が全国大会において2年連続で学年優秀賞と大会委員長賞をダブル受賞されました。私たちは先輩方の活躍された姿を胸に刻み、皆さんを目標にこれからも頑張っていこうと思

います。さて、社会に目を向けてみますと、この1年間には様々なことがありました。先日行われたテニス全豪オープンを制し、昨年9月の全米オープンに続く4大会連続優勝を飾った大坂なおみ選手が、アジア人初の世界ランキング1位という快挙を成し遂げました。また、バンクーバーで行われたフィギュアスケートグランプリファイナルで紀平梨花選手が初出場初優勝を果たすなど、スポーツ界では若い選手活躍が目立ちました。常に高い志、目標を持ち、日々の努力を重ね、結果へと繋げていくたくましい姿には、日本中が感銘を受け元気づけられました。印象的だったのは、記者会見で両選手共に、精神面について語っていたことです。私も部活動でくじけそうなとき、先輩に「自



分の考えを持って、自分らしく頑張っていれば、そのうち良い方向に向かっていくよ」と励まされ、救われたことがありました。自分が何かに向かって努力するうえで培った精神力は自分を強くしてくれるのだということを、私は先輩からも教わっていたのです。高1・高2のみならずにも、このようなエピソードがあるのではないのでしょうか。何か不安なことやしんどいことがあった時、いつも温かく見守ってください、精神面でも技術面でもアドバイスをして頂けたことで、私たちは自分の強みを見つけ、不安から自信に繋げることが出来たのだと思います。

本当にありがとうございます。

そして、皆さんのご記憶にも新しいことと思いますが、昨年の7月に大規模な豪雨が西日本を襲いました。多くの学園生がボランティアに参加する中で、私も被災した方々のために何かしたいと思い、「歌う」という自分の好きなことで被災地を元気づけることのできるイベントに参加しました。そのイベントには二十代



から五十代まで幅広い年代の人達が集まり、それぞれが特技を活かして楽器を演奏したり、歌を歌ったりしました。全員が揃ったのは本番の一度だけにもかかわらず、被災地への復興を願うという思いのもと、見事に歌声が重なり合ったのです。この経験を通して、同じ思いを持つ人と人が繋がれば大きな力となりました。人と人が繋がりが合うことが何より大切です。先輩方も、この金光学園で出会ったご縁はもちろん、これから社会で出会う人とのご縁も大切にしていきたいですし、困った時は助け合ってほしいと思います。そして何より、私達後輩も、先輩方と出会えたご縁を大切にしていきます。母校を懐かしく思ったら、いつでも金光学園に足を運んでください。

先輩方は、今日を境に新しい世界に向かって大きな一歩を踏み出されます。困難な壁にぶつかれることもあるでしょう。そんなときは金光学園の「人をたいせつに自分をたいせつに物をたいせつに」という合言葉と、先輩方や仲間と過ごした楽しい学園生活を励みに、自信をもつ

て自分らしく夢に向かって歩み続けて下さい。私たちは先輩方が築かれた伝統を引き継ぎ、そしてそれを後輩達に受け渡していきたいと思えます。

最後となりましたが、先輩方の今後のさらなるご活躍とご多幸を、在校生一同お祈りして、送辞とさせていただきます。

答 辞

卒業生代表 山下 朋紀



冬の寒さも次第に和らぎ、日差しにも暖かさが感じられるようになってきました。本日は私たちのために、このような厳粛で盛大な卒業式を挙行していただき誠にありがとうございます。思い起こせば、

3年ないし6年前に真新しい制服に身を包み、これから始まる生活に胸をおどらせ金光学園の門をくぐったことがつい昨日のこのように感じられます。私たちはここで出会った仲間たちと共に切磋琢磨しながら、勉強や部活動、学校行事に取り組んできました。そしてこの時を迎えることができました。私たちの門出にあたり、ご来賓の皆様を始め、多くの方々からお祝いや激励のお言葉をいただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

さて、この1年を振り返ってみると様々なことがありました。中でも皆さんの記憶にあるのは昨年7月に起こった西日本豪雨ではないでしょうか。広島県では土砂崩れや浸水が、晴れの国と称される岡山県でも河川の氾濫や堤防の決壊などがあり、金光学園においても多くの方が被災されました。全国各地で地震や台風などの被害が起こり、まさに2018年の「今年の漢字」が表していたような「災」の年だったと言えるでしょう。被災された方々へお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈りしています。

しかしこのような出来事を通じて、私たちは大切なことを学びました。それはように応援してくれたり、一緒に喜んでくれたりしました。時にはぶつかり、反抗したこともありましたが、どんな時も一番の理解者でした。いつもは面と向かっては言えないけれど、本当にありがたうございます。これから少しずつ恩返しが出来よう、しっかりと自分の道を歩いていきます。

これからの金光学園を担っていく在校生のみなさんに伝えたいことがあります。それは高校生らしく様々なことに挑戦してほしいということです。時間はあつという間に過ぎていきます。今挑戦出来ることはやらなければ後悔すると思います。必死で頑張れば思い描く未来にきつとたどり着くことができるはずです。苦しんで立ち止まることもあるでしょう。しかし皆さんの未来は無限に広がっています。自分の中にある可能性を信じて進んでいくください。

本日をもって、私たちは長年通い続けた金光学園を卒業し、夢や目標に向けての一步を踏み出します。これから私たちが歩んでいく道は平坦ではないかもしれませんが、どんなに高い壁でも乗り越えていきます。

学園の合言葉にある、人を大切にする精神です。県内外から沢山のボランティアが駆けつけ、1日でも早い復興に向けて協力してくださいました。この場にも真備町を始めとする被災地へのボランティアや募金などの支援活動を行った方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。私たちも人のために行動する、互いに助け合える人間になっていきたいと思えます。また、自分が助けられた時は、そのことを当たり前だと思わず、何事にも感謝の気持ちを持ちながら生活していきたいです。

一方で世界に目を向けると、昨年6月、そして昨日も行われた米朝首脳会談が印象に残っています。両国首脳が直接顔を合わせるのには史上初であり、朝鮮半島の完全な非核化への取り組みについて話し合われました。一昨年には核兵器廃絶国際キャンペーンという団体がノーベル平和賞を受賞しました。ゆつくりとはありますが、着実に平和への取り組みがなされています。これからの私たちにとって、学園で学んだ「あいよかけよ」の精神でお互い助け合い、文化などの違いを認め協力し、より良い未来を築いていくこと

最後になりますが、これまで私たちのことを支えてきてくださったすべての皆様へ深く感謝を申し上げますとともに、母校である金光学園の更なる発展を願い、答辞とさせていただきます。



が重要になってくるのではないのでしょうか。この3年間を振り返ってみると、仲間たちと過ごした輝かしい思い出であふれています。特に印象的だったのは、高校1年生の入学時合宿です。オリエンテーションやバーベキューを通して4月に加わった仲間たちと親睦を深めることが出来ました。授業では暗記の難しい用語や公式を歌に乗せて楽しく覚ええました。不安だった高校での勉強に自信が持てるようになったことが今でも記憶に残っています。

金光学園での生活を通して、私たちが成長できたのは、先生方の存在があったからです。時に厳しく、時に優しく、私たちを導いてくださいました。いつも私たちの可能性を信じ、最後までやり抜くことの大切さを教えてくださった先生方に出会えたことは、私たちにとても大きな財産です。

そして、私たちを一番近くで見守ってくれたのは家族です。私たちのためにおいしい食事を作ってくれるなど、健康な生活が送れるよう支えてくれました。部活動では、つまずいたときに相談に乗ってくれたり、私たちがベストを尽くせる

答辞・送辞はそれぞれの起草委員会で作られたものである。

◇答辞起草委員◇

高3 亀山 金紀 山崎 知
茅野亜衣子 坂口 小枝
真田明日香 猪原 香子
小坂 絃子 岡野 浩太
金川 泰輔 塚本 航平

◇送辞起草委員◇

高2 小林 礼佳 松本 桃香
野宗 丈渡 市川 真広
吉田 史玖 天野英理生
長谷川主税 組島梨央奈
杉田 愛佳 瀬尾 越司
高1 小原 千晴 藤本 もえ
岡崎 萌香 塚本 千紘
三谷 悠太 守屋 祐汰
岡崎 拓翔 小田原克海
武智 環太

贈る言葉

卒業おめでとう

坂口 務

「どんな事があってもめげずに、忍耐強く、執念深く、みだりに悲観もせず、樂觀もせず、行き通して行く精神——それが散文精神だと思います」

作家の広津和郎の言葉です。卒業する皆さんにこの言葉を贈りたいと思います。

私は高校へ進学した頃から文学に関心を持つようになり、休み時間や昼休みも詩や小説を読んでいます。受験一色の学校生活には楽しみを見出せず、同級生と話をするのもおっくうでした。成績も下がる一方でしたが、大学受験だけは奇跡的にうまくいき、志望校に合格することができました。

あこがれの文学部に入学したわけですが、必ずしも順調とはいえません。大学では先輩や後輩など人との出会いに恵まれ、彼らとの交流は楽しいものでした。しかし、図書館の膨大な蔵書を前にして、

これからいくらでも好きな本を読めるはずなのに、研究の対象となつたとたんこれらの本は自分にプレッシャーを与えるものでしかなくなりました。周囲の人間が皆自分より才能があるように見え、活字を見ても頭に入らなくなりました。外から見れば何の波瀾もない平凡な学生だったはずですが、内心は不安でいっぱいでした。

そんな折に出会ったのが冒頭の広津和郎の言葉です。自分にぴったりの言葉のような気がし、以来、生活の中で難しいことがある度にこの言葉を思い返すようになりました。

卒業する皆さんの前に現れる社会や個人的な生活がどのようなものであっても舞い上がりすぎたり落ちこみすぎたりすることなく、現実を静かに見据え、粘り強く前に進んでほしいと願っています。

人生を楽しんで

土谷 香奈子

卒業おめでとう。皆さんと出会ってからもう3年が経ちました。入校時合宿での助動詞の歌から始まり、古文の小テストでは再テストの嵐。放課後まで本当によく残しました。でも、皆さんは「嫌だ」「無理だ」と言いながらも逃げずに頑張つて食らいついてきてくれました。独自の暗記法を編み出した人や何度も質問してくれた人もいました。皆はそういう意味でもとても素直で頑張り屋さんだと思います。これから皆さんにはいろいろなことが待ち受けています。楽しいことももちろんたくさんあるけれど、辛いことや大変なことたくさんあります。避けて通れるならそれもいいでしょう。でも、残念ながら逃げられないことの方がきっと多いはず。その時に、その現状に文句を言いながらやるよりも、どうせやるなら楽しんでみて欲しいと思います。同じことをするのでも、やらされている

のと自分から必要だと思つてするので結果が大きく違つてくるはず。そういう私も、ブツブツ文句をよく言いますが、気づけば楽しんでしていることがほとんどです。皆さんのこれからの人生が幸多いものとなりますように。また元気な姿を見せてくださいな。

熟れた実は落ちた処で生える

垣内 寿生

皆さん卒業お芽出とうございます。教師生活最後の年に皆さんを担当できたことを有難く、誇りに思います。餞の言葉として、私の座右の銘を贈りたいと思います。

あるとき、お徳の高い先生が奥城（お墓）へ向かう石段を登っていました。ふと見ると、石段の丁度中央にどんぐりの実がひとつ落ちています。どんぐりにしてみたら、まことにマンが悪いというか、自分にとって一番都合の悪い場所にたまたま落ちてしまったわけです。けれども、そのどんぐりをよく見ると、石段の中央から細長い根をひよるひよると脇の土のある所まで伸ばし、そこから水や養分を吸収して可愛いらしい双葉を出していま

した。このどんぐりの姿を見て、その先生は、

「これはえらいもんじゃ。どんぐりは場所が悪いと愚痴や不平を言わずに、自分が落ちた場所で芽を出して成長していくよう最大限の努力をしておる。そしてちゃんと芽を出しておる。こりゃ、どんぐりに負けてはおれん。我々も言い訳ばかりせず、元氣を出して今おる場所自分で出来る精一杯の努力をせにやならん」という、ひとつの悟りを啓かれました。それが、

「熟れた実は落ちた処で生える」という教えになつて残っています。実が熟れておれば、落ちた場所を問わずに生えることができます。逆に生えることができないのは、熟れていない証拠だと自覚せよという、ある意味厳しい教えです。

皆さんは、これから新しいステージに向かわれるわけですが、これから行く処があなたにとって「落ちた場所」です。どうかあなたの場所で最善を尽くしてください。そして立派に芽を出し、それぞれの場所で立派な大樹へと成長してください。

Treasure everything!!

山本 幸子

共に過ごした6年間、全てが私の宝物です。学園中からの皆さんとは、中学入試スクーリング……小学生時代からの出会いでした。全員が張り切つて、一生懸命、希望に満ちた学園生活をスタートさせた



時の姿を、つい最近のこのように覚えていきます。家庭訪問では、皆さんが育ってきた環境や通学路、保護者の思いを知ることができました。中学3年間は、様々な行事を通して一緒に考え、盛り上がり、忘れられない思い出がたくさんできました。勉強のことだけでなく、友人関係や家族とのこと……思春期ならではの悩みを聞いたこともありました。語り尽くせないほどいろいろなことがありましたね。全てが懐かしい思い出です。この金光学園で当たり前のように経験していたことが、とても貴重な機会だったと分かる日が来ると思います。

高校では、新しい出会いもたくさんあり、進路選択や受験に向けて、授業やHR、日常生活で一人ひとりとたくさん話をしてきました。成長を間近で見守る中で、大切なのは素直で誠実な気持ち……人間力だと思いました。これから皆さんがどんな大人になっていくのか、楽しみにしています。高校を卒業し、進学、就職していく際、自分の道は自分自身で切り開いていかなければなりません。自分一人の力だけでできるものではありません。自分で挑戦し、努力し、進化し続ける中で、

常に人を敬う気持ちを忘れないでください。多くの人とつながる中で、周りに良い影響を与える人になってください。金光学園の合言葉を大切に、素敵な人生を歩んでいくことを願っています。今までの学園生活で反省や後悔がある人も、今日から新たなスタートです。これからの学び方や行動、考え方によって可能性は無限大。またいつの日か、笑顔で再会しましょう。卒業おめでとう。You are my treasure!

裏付けのある「PRIDE」を育もう

水岡 清一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんはこの3年間で「できるようなったこと」はいくつありますか？誰が必ず1つ以上はあると思います。できるようなるまでには必ず「意志」と「行動」が伴っていたはず。実はそれが『なりたい自分』に近づいた一歩であり、そこに「PRIDE」が生まれるのです。そして「できなかったこと」ができるようになる、その次の段階を目指す。これを繰り返しながら人間は成長していくのであり、



「できなかったこと」や「今できないこと」には「なりたい自分」になるための(新たな「PRIDE」を獲得するための)ヒント(次なる目標)が含まれているのです。

これからの人生の中で「選択」と「決断」をする瞬間が必ず何度か訪れると思います。「できるようになったこと」が

増えれば「選択」できる可能性は広がるし、「決断」の後押しにもなります。できるようにするためのチャレンジを繰り返して、人としての「PRIDE」を育んでほしいと思います。そして、合言葉で示された「GAKUEN PRIDE」をこれからも大切に！

行動を起しなせ！

成田 知弘

卒業おめでとうございます。皆さんと出会ってもう3年、たくましくなった姿を見て、本当にうれしく思います。

4月からそれぞれの道に進み、将来の進路を選択していくようになります。皆さんに身に着けてほしいのは決断力です。成功する人は決断力があり、大きな物事もスパスパと迷うことなく決めます。苦手な人は次の3つのことから始めましょう。

- ・些細な事でも積極的に決める。
- ・意識しないことでも積極的に決める。

例えば、今日は昼食に○○を食べようという意識的に決めるなど。

・人と接する

決断するための恐怖心を克服するには、1人で考えるより、外に出て人に会ってみては。

・行動してから考える

いつまでも考え込んでしまう癖のある人は、まず行動するべき。行動した後で考える。

みなさんの中には行動を起こそうと思いつつも、失敗するから怖がっている人もいるかもしれません。行動しなければ失敗しない。でも失敗を恐れて行動しない。存在しない人間に近づいてしまいます。行動することは、いま現在を一生懸命生きていることの存在証明です。

私が大切にしていく文章です。変化が激しい今の時代、これを選べばよいという「正解」は無いように思います。「自由」な反面、「責任」を問われることもあり。人生は自分で作り上げていく「楽しさ」と「怖さ」があります。だからこそ人生は楽しい。皆さんもこれからの人生を「自分」で決断し、後悔のない人生を送ってください。

卒業式を迎えるみなさんへ

内村 政司

皆さんご卒業おめでとうございます。1年間という短い期間ではありましたが、

私にとっては思い出深い学年でありました。皆さんにとってはどうかだったのか気になるのでありますが、意義深い実りある1年であったとすれば幸いです。

中学3年生以来久しぶりに学年団に帰ってきましたが、「良くも悪くも変わっていない」皆さんに懐かしさと少々不安を覚えました。春の球技大会での実行委員長挨拶に始まり、不安の中かと思われたスタートでしたが、学校行事などにも案外真面目に参加していたこと、うっかりはあっても基本約束事は守ろうとする人が多かったことで救われたような気がします。まだまだ「人の話を聞く姿勢」に問題を感じる、「自分の都合を優先する傾向が強い」点は気になります。この1年の間にも色々な経験を積み、成長を感じることも多くありました。

また例年に比べて、文系の人とよく話したように思います。中学時代から知っているので、授業のあるなしにかかわらず、進路や学習について話したように思います。少しでも役に立ってれば幸いです。

自分でも何を書いているのかよく分からなくなってきましたので、そろそろ終

わりにしようと思いが、最後に一つだけ言わせてもらいたいと思います。人生で無駄になることは何一つありません。いい加減な気持ちで臨めば、何も得るものがなく、真剣に取り組めばどんな小さなことでも必ず得るものがあります。今はまだ分からないと思います。半信半疑でも構いません。心に留めておいてください。最後にもう一度、皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんの未来が実り多いものになることを心より願っています。

次の舞台での活躍を

期待しています！

藤原 俊浩

2年前にこの学年に入り、みなさんの成長を見させていただきました。高2が始まるとすぐに修学旅行があり、その後ほつまつ祭の準備があつたりと、慌ただしい日々が続きましたが、みなさんは部活動にも積極的に取り組みながらも、行事に全力で取り組み、形にしていけることができました。勉強にもしっかりと取り組んでいる姿は逞しい限りです。これからいろいろなことを経験し、時には辛いこと

もあるかもしれません。しかし、みなさんならどんな時でも乗り越えられると確信しています。学園での楽しい思い出を胸に、ぜひ次の舞台でも羽ばたいてください！

あいさつが人生を変える

小松原 悠希

みなさんご卒業おめでとうございます。みなさんの人生のうちの、高校3年間という大切な時期とともに過ごせたことを心から幸せに思います。みなさんにとってこの3年間が二度とない時間であったのと同じように、私にとっても二度とない、教員生活で最初に出会った生徒たちとの時間です。そんなみなさんと最初に交わした言葉、「あいさつ」に関するエピソードを1つ紹介します。

「芸人としての才能がないから辞めさせよう」ある青年が劇場から追い出されそうになったときです。「芸は下手だが彼のあいさつはとにかく気持ちが良い。このままこの劇場に置いてやってくれないか」との声があり、彼は劇場に残ることになりました。後のコメディアン、欽ちゃんこと萩本欽一さんの修業時代の話です。

彼がスターだからあいさつができたのかもしれない。しかし別の考え方をすると、あいさつができたから彼はスターになるチャンスをもたらえたととらえることもできます。

夢を叶えるために、あるいは夢を見つけるためにこれから新しい世界へ出ていくみなさん。困難に直面することもあるかと思いますが、そのような時にこそあいさつです。そこからコミュニケーションが始まり、時には人生が変わることもあるでしょう。206名一人ひとりの未来が明るく輝かしいものであることを祈って、また会える日を楽しみにしています。その時はまた、元氣なあいさつで。

贈る言葉

新谷 忠彦

卒業生の皆さん、おめでとうございます。卒業してからの、これからが大切です。命を大切にして、金光学園の、母校の心を持って、それぞれの分野で大いに活躍してください。広く世のお役に立ちながら、生きがいのある人生を送って欲しいと思います。そして君たちの人生が世の中をより平和にし、心豊かにする生き方であ

ることを、心より切望しています。

Where there's a will, there's a way!

奥野 公子

みなさん、ご卒業おめでとうございます。私はいつも卒業生に、この諺を贈っています。日本語では「精神一到何事か成らざらん」と訳され、しようという決意があれば道はおのずから開けるということを伝えています。Willとは、ある目的や決断に向けての確固として揺るぎない意志を意味し、目的達成のための意志力や決意を含んでいます。人生のあらゆる場面で、Will(意志)はとても大切です。夢や目標ができれば、それを追い求める強い意志を持つてほしいと思います。

私がこの諺が好きで、共感を覚えるのは、Wayに添えられた冠詞がTheではなくaである点です。人間誰しも、どれほど懸命に努力しても叶わない夢があったり、望み通りにはならない時があったりするものです。しかし、この諺は、「意志があれば道は開ける」と教えてくれています。私は、このa wayとは、実はthe best and happiest wayなのだと信じています。揺るぎない意志を持ち、一生懸命

頑張っている人には、たとえ自分が熱望していた道とは違ったとしても、その人を真に必要とし、その人が本当に幸せになれる、何かしらの最善の道が用意されているのだと思います。

スタンフォード大学の心理学者であるケリー・マクゴニガル氏によれば、意志力を筋肉のように鍛えられるものにとらえて粘り強く努力を続けると、目標を達成する可能性が高まるそうです。自分のWillpowerを信じ、鍛え、夢に向かって努力を続けてください。必ず、道は開けます。みなさんが最も輝ける道が。

贈る言葉

田中 誠

卒業おめでとうございます。卒業にあたり、私の好きな言葉を贈ります。「努力した人すべてが成功するわけではない。しかし、成功した人はすべて努力している」

いま、皆さんは将来の目標を持っていることでしょうか。これからの長い人生の中で、その目標は変わるかもしれないし、困難な状況を迎えるかもしれません。努力し続ける限り、目標を達成できる可能



卒業短歌

■ 1組 ■

一片の悔いなく過ごし得れしもの
感謝と誇り金光ブライド
光畑 慶亮

渡されたあのカイロから伝わった
母のやさしき父の心配
岩川 裕美子

友人と囲う弁当いつの日か
お酒になってもどうぞよろしく
片井 葉月

六年間共にすごしたロッカーを
開けば思い出あふれんばかり
清水 美沙

■ 2組 ■

時流れ努力重ねた柔道着
半年が経ち重み恋しき
橘高 光哉

金光の大樹によって養われ
今さなぎから蝶になり翔ぶ
東 毅和

旅立つ日歩んだ足跡舞う桜
枯れても離れぬ我らの絆
水成 俊介

教室に響くあいさつ「また明日」
卒業きて変わる「またいつか」
松前 彩華

■ 3組 ■

青空に思いかえすは感謝だけ
そろそろ雪解け冬の梅
貞清 晋吾

ラグビーを始めてできた傷あとは
体を張った男の勲章
杉原 秀明

六年間使い続けた弁当箱
込み上げてくる母への感謝
平田 晴紀

気づいたらみんなの顔がたくましく
授業の鐘が終わりを告げる
梅村 美稀

■ 4組 ■

知らぬ間に小さくなった制服は
三年間の成長の証
小林 賢人

十八年支えてくれた家族には
全力感謝いつもありがとう
佐藤 秀成

冬過ぎて散る花もない学園を
旅立つ生徒は満開の花
藤井 吾澄

朝起きてカーテン開けると真っ暗で
朝日はいつも電車の中
向 菜々子

■ 5組 ■

戸惑いと新鮮さが交差する
寮生活と学園生活
田中 郁真

人生の長きにわたる道の中

一点光る六年の日々
福井 悠人

全員で共に挑んだ決勝戦
とどかなかつたあと四ポイント
宮本 晃平

昼休み笑いで予鈴掻き消され
気づいて焦り階段ダツシユ
難波 花音

放課後に落ちゆく夕日背を向けて
見えるは輝く金光の星
藤原 康晴

恋愛も僕のシニートも大はずし

スカツと空振る音とともに
水本 健太郎

「大丈夫」背中を押すのは友の声
自信を胸に夢へと走る
栗山 紗季

■ 7組 ■

朝起きて親とかわすおはようは
今日をがんばる力に変わる
森藤 由衣

六年間ボールを通して繋がった
様々な出会い一期一会
伊藤 匠

金光で学んだ精神活かすべく
過去は忘れてにちにちがきら
金川 泰輔

念願の全国大会切符持ち
頬を伝うは汗か涙か
池田 芽生

六年間共に過ごした友達へ
最後に言いたい「ありがとう」
藤 瑛利子

卒業を前に思うこと

生徒

沢山のありがとう

1組 池田 朱里

卒業を控えた今、金光学園で過ごした6年間を振り返ってみると、色々なことが思い出されます。期待と不安で胸を膨らませ、初めての電車通学が始まった中学1年生から、あつという間に6年が経ちました。学校生活は本当に楽しい行事が多く、この6年間とても充実した日々を送ることができました。もちろん、楽しいことばかりではなく、辛かったことも悲しかったこともありました。それでも思い出されるのは楽しいことばかりです。そんな学校生活を送ることができたのは、私と関わってくださった先生方、いつも近くで私を助けて笑顔をしてくれた友達のおかげです。沢山の先生方に優しくサポートして頂き、とても支えられました。嬉しいことや楽しいこと、色々

な感情を共にしてくれる本当に素敵な友達にも沢山出会うことができました。私の学園生活は、友達を抜きにしては語る事ができません。皆の存在はとっても大きくて、言葉には表すことができないくらい、数えきれない大切な思い出で溢れています。今、それぞれが新しい道に進み離れてしまうと思うと、胸に詰まるも

のがあります。でも、私達にはいつでも帰ってこられる金光学園という場所があります。こんなに素敵な学校に通わせてくれた家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。6年間の学園生活、沢山の思い出は一生の宝物です。金光学園で過ごした日々を無駄にすることなく、お世話になった方に少しでも恩返しができるように、今後もっと成長できるように努力していきます。今まで本当にありがとうございました。

野球部マネージャーとして

2組 原田 祐里

「マネージャーも選手同様に大切な戦力」これは私が高校野球部に入部した当初、高田監督にかけられた言葉だ。この言葉の通り、選手に引けを取らないようチームの勝利の為に、練習に励んだ。

私たちマネージャーがいつも心がけていたことは2つ。1つ目は、先回りの行動をするということだ。今なが必要と



されているか、これからなにを準備していけばよいのか。みんなが最適なコンディションで練習に打ち込めるように常に周りを見て行動していた。もう1つは、人とのコミュニケーションを大切にすること。マネージャー同士や選手、先生方との何気ない会話はもちろんのこと、地域の方々や保護者のみなさんとお話することも私の励みになっていた。それぞれに野球部への強い想いがあり、それぞれにドラマがあった。そんな素敵なドラマに携われたことは、とても喜ばしく誇らしいことである。

支える立場でありながら、支えられることの方が多かったように感じた3年間であった。試行錯誤しながら日々共に成長していったマネージャー。野球部の先輩であり、人生の先輩でもある沢山のOBの方々。毎試合、球場に向きサポートしてくださるお母様お父様方。「ありがとう」笑顔でそう言ってくれる選手のみんな。試合を楽しんでスタンドから応援してくださる皆様。そして、誰より野球部のことを愛してくださる顧問の先生方。言い出したらきりがなくらい感謝の気持ちでいっぱいだ。

さて、今年もまた数カ月後には夏の高校野球が始まる。是非、球場に足を運んで応援していただくと共に、ベンチやスタンドから一心不乱に声援を送るマネージャーの姿にも注目して頂きたい。

かけがいのない6年間

3組 茅野 亜衣子

この文章を書くにあたり、改めて学園での6年間を振り返ってみると、長いようであつという間だった。色々な行事や日々の生活のことでも思い出すが、一番印象に残っているのは部活動のことだ。高校生になり、好奇心に駆られるまま3つの部活を掛け持ちしたおかげで、特にほつま祭の前などは忙しかった。完全に自業自得なので仕方ない。辞めようと思えば辞められたけれど、一度やると決めたことは最後までやりたい性格なので、できる限り頑張ろうと決めて3年間活動してきた。

結果的に、私は部活動を続けて良かったと思っている。もちろん、楽しいことばかりではなかった。でも、活動内容の濃い薄いや量の多い少ないに差はあつたにしろ、どの部での経験にも無駄なもの



部員の作品から刺激を受けたりすること
もあつた。文芸部は、一番力を入れて取
り組んだ部活動だと思ふ。お互いの作品
を批評していく中で、文章の書き方だけ
でなくコミュニケーション能力も身に付
いたように感じている。暇でも忙しくても、
毎月1作品を書き上げるといふのは決し
て楽なことではなかつたけれど、「面白かつ
た」と言ってもらえた時は苦労が報われ
た気がして、とても嬉しかった。

3つも部活動をしておきながら、特別
大きな賞をとったり、何か記録を残した
りするようなことはなかつたけれど、結
果や記録よりも大切なものを得られたと
思っている。部活動に入らなければ関わ
らなかつたであろう色々な人たちとの出
会いや、一人では出来なかつた様々な体験。
これは、私にとって一生ものかけがえ
のない財産だ。

部活動に限らず、学園で過ごした6年
間で出会った友人や先生方のおかげで自
分の価値観や世界観が大きく広がったよ
うに思っている。この縁に感謝しながら、
これからも色々なことに積極的に挑戦し
ていきたい。

「支え」があつての今

4組 西部 鈴花

6年間の金光学園生活を振り返ると、
「支え」という一文字が思い浮かびます。

金光学園に入学してたくさんの方に
挑戦し、さまざまな経験をした6年間の
中で、時に壁にぶつかり、下を向いたこ
とも何度もありました。そんな私の6年
間には、共に喜びや悲しみを分かち合い、
向き合ってくれた多くの人の「支え」が
ありました。それは、私達の6年間の柱
となつて正しい方向に導いてくださった
先生方、どんな言葉を投げかけても自分
の一番の味方となつて受け止めてくれた
両親、一緒に笑つて泣いて毎日のように
幸せな日々を過ごした友達、学年を越え
て仲良くしてくれた先輩方や後輩達、未
熟な姿から始まつた私の成長を最後まで
見届けてくれた金光学園、そして一番大
きな「支え」となつたバスケットボール
でした。

バスケットと向き合つた6年間は、私
の人生にとってなくてはならない時間
であり、最後まで何かをやり遂げた達成感、
チームをまとめることの難しさ、新しい
ことに挑戦する勇気や目標を持つて努力

1人1人に感謝を伝えたいです。多くの
人の「支え」がなければ今の自分はいま
せん。金光学園で過ごした時間は私にとつ
て大切な宝物です。ありがとうございま
す。

6年間のすべてに感謝

5組 竹谷 和真

僕が金光学園で過ごした6年間は、思
い返してみれば本当にあつたという間
でし。入学した時は新しい環境に慣れるか
不安でしたが、優しい友達や先生方に恵
まれて成長することができました。その
中で僕の成長に最も影響したのは、中高
通しての野球部の活動です。

中学時代は堤先生に、時には優しく時
には厳しく教えていただきました。一番
心に残っているのは1年生の時にティ
ーバッティングのボールを蹴つて集めてい
たら、ものすごい勢いで叱られたこと
です。普段は優しい姿しか見ていなかった
ので、当時は驚きながらも怖かつたのを憶
えています。それでも、そのことから、野
球は技術だけでなく姿勢も大切だと学
びました。

高校時代は多くのスタッフの皆さんに



教えていただきました。高田先生からは、
チームというは試合に出ている選手や
ベンチメンバーだけでなく、裏方の人や
スタンドで応援している全員で成り立
ているということ。平賀先生からは、デ
ータ班において何が大切なのかを。日笠先
生からは、野球人として様々なことを学
びました。他のスタッフの方にも技術面
や体面で指導していただき、成長する



を継続することの大切さなど、多くのこ
とを学ぶ機会となりました。そして、ど
んな壁にぶつかつても一緒に乗り越え、
私を支え元気をくれる仲間、私達に向き
合ってくれ、何があつても見離さないで
くれた、本当は思いやりのある顧問の先生。
多くの人の「支え」のおかげで、6年
間のバスケット人生は私にとって大いに自信に
繋がる経験となり、本当に大切な時間を
送ることができました。バスケットは私にとつ
て青春でした。

卒業する今、私は金光学園で出会つた

ことができました。皆さん、ありがとう
ございました。そして、試合や練習で楽
しい時や辛い時を共に過ごした野球部の
仲間たち、本当にありがとう！

僕はこの4月から自分の目指していた
大学に進学します。まだはつきりとした
夢は持つていませんが、この金光学園で
学んだことを心に刻んで頑張ります。6
年間ありがとうございました！

卒業前に思うこと

6組 藤原 康晴

私は6年間金光学園で学び、生活し、
多くのことを獲得できたと考えている。
その中で私にとって最も大切なものは友
人達だ。決して数は多い訳ではないが、
私には大切な友人がいる。その友人との
一番の思い出は、高校2年生の時の修学
旅行だ。私は北海道コースのグループに
いた。

その中でも小樽・札幌での自由行動が
心に残っている。たわいのない話をしな
がら、北の街を歩き、北海道の豊かな海
の幸を味わう。次にどこに行くか、小さ
な休憩スペースで話し合い、目的地への
道に迷い、ウロウロする。全てのこと

本当に楽しかった。特別なことはなかったが、何故か非常に印象深く記憶している。これは、きつと仲の良かった友人達とのグループ行動だったからに違いない。もともと仲の良かったグループだったが、修学旅行を通してさらに仲が深まった。今では忘れることができない思い出になっている。

他の公立の中学校や高校とは違い、金光学園では6年間で共に過ごすことになるので、ケンカやすれ違いなども起きた。しかし、それ以上に得られるものが大きかった。進路や生活のこと、その他の様々なことについて相談できる、仲違いしてもすぐ仲直りすることができる、そんな友人は金光学園だからこそ得られたのであろう。卒業し、次の進路や夢に向かって皆が別々の道を進んで行くが、数年後にまた会える日を楽しみにしている。

感謝を胸に

7組 塚岡 麻果

私が高校で頑張ったことは、勉強です。私は、行きたい学部が高2まで決まっています。今思うと、もっと早く決めて、それに向けての勉強をすればよ

かったと、少し後悔しています。私は最終的に医療系の学部に決めました。それが難しいと分かっていたはいましたが、幼い時の経験が私の背中を押してくれました。私が入院していた頃、沢山の人が助けられました。家族や担当してくれた医師だけでなく、同じ病室で病と闘っていた子やその子の親、私が覚えていないだけで影で支えてくれた人が沢山いました。その経験から、私は将来医療に関わる仕事に就きたいと思っていました。高校3年時に色々なオープンキャンパスに参加した時、自分の求めている大学を見つけた。そして入試まで必死に勉強しました。友達や学校の先生、塾の先生にも助けてもらい、そのおかげで私は第一志望の大学に合格することができました。四月から故郷を離れ、姉と2人で住むことになりました。多少の不安はありますが、これまでの感謝を忘れずに、大学生活を送りたいと思います。



保護者

出合いに感謝

1組保護者 池田 真紀子

長いと思っていた6年という月日もあとひと月となってしまいました。交通の便が悪く学校まで送迎した道、一緒に笑ったり、涙したり、喧嘩した道。あと何回一緒に通うだろうと思いつ、6年間の思い出が日々です。

この6年間で多くの出合いをいただき、学び多い貴重な時間だったと思います。小学校3年から始めた剣道を部活として卒業まで続けてこられたのも、やさしく理想となってくださった先輩、一緒に剣道をしようと呼びかけてくれた友達、厳しく、温かく、真っ直ぐに向きあってくださった先生に支えていただいたからだと思います。何度も、辞めようかと思う時もありましたが、少し離れてみたり、友達と話をし、辞めてしまうことはできるけれど、もう一度だけと気持ちを切り替えて続けることができました。親として、子供が悩んでいると、後悔しないように自分で決めていいよと話しながらも、そんなに気持ちがいけないのなら辞

めたらと言っておきたいと思う反面、辞めずに続けてほしいとも思い、心穏やかではありませんでした。そんな時、先輩ママから「信じるしかできないよ。大丈夫」とたった一言ですが言ってもらい、私にとってはとても大きな一言となりました。辞めずに続けた結果、目標の三段取得。団体戦での県大会出場ができました。それができ、そのことはこれからの大きな力となると思います。



これから先、選択に悩むことがあると思います。正面から立ち向かうことも大切ですが、少し離れた所から、ゆっくり考える勇氣を持ち、「人をたいせつに」自分をたいせつに「物をたいせつに」コッコツと自分が信じる道を進んでいってほしいと思います。

個性のキラキラ輝く金光学園のさらなるご発展を心よりお祈りいたしております。多くの出合いと学びをありがとうございました。

ありがとうの気持ちをこめて

2組保護者 田谷 麻美

「あつという間の6年間でした」保護者の方々もそのようにお感じでいらつしやるのではないのでしょうか。

入学式では金光駅に桜が咲き誇り、これから始まる我が子の学校生活を盛大に祝ってもらっているように感じました。どのお子さんの顔も輝いていて、心から「がんばれ」の応援をしたことを思い出します。毎日毎日、暑い日も雨の日も、どんなに寒い日も、片道1時間かけて登校し、「学校どうだった？」とたずねると「楽しかったよ!」と答える娘の笑顔に、安堵

する毎日でした。大きな休みの時には「学校に行けなくてつまらない。早く友達に会いたい」と、学校に行くことを本当に楽しみにしていました。ほつま祭では演劇をがんばり、台詞が早口すぎて何を言っているのか聞き取るのが大変でしたが、楽しく積極的に活動する娘の姿に感激しました。体育会も、友達と協力して応援や競技を楽しむ姿に、本当に幸せな気持ちでした。今は、「金光学園に入学できて本当に良かった！」と声を大にして言いたい気持ちです。

母親としては、お弁当を作れなくてよくカレーラーメンを食べさせていたこと、黒焦げの唐揚げや、食べるのできないナニかをお弁当に入れていたこと、「ごめんね」と反省です。

最後の最後まで親身になって受験にかかわってくださったことも、何の知識もない私にとっては本当に心強かったです。思い返せば、どんな時も先生方が寄り添ってくださって、乗り越えられたこともたくさんありました。

「あつという間の金光学園の6年間」は私たち親子にとって何物にもかえがたい、人の優しさで温かさに育てていただいた

6年間でした。いざ卒業となり、寂しいとはこういうことか、と涙腺がゆるむこの頃です。

次に咲く桜も、また暖かく新入学生を迎えてくれることだと思えます。これからの金光学園のますますのご発展をお祈りいたします。

感謝

3組保護者 海老原 育子

早いもので、中学入学から6年が過ぎようとしています。思い起こせば6年前、私の知人の勧めもありましたが、オープンスクールに行つて、学園を希望したのは息子でした。息子は、父親の仕事の関係で転校が多く、幼稚園2園、小学校も3校かわりました。ですから、金光学園に通学できたことは、かけがえのない貴重な6年間で、感慨深いです。

歴史と伝統を感じさせる落ち着いた雰囲気の中で、部活動や友達との学園生活は大変有意義なものだったと思います。私も、ほつま祭や体育会など本当に感動させられ、楽しい時を過ごさせてもらいました。

私は、自分の息子ながら「彼は宇宙人

感謝

4組保護者 土肥 千恵

30年前にもお世話になった主人の大切な母校の金光学園への入学が決まり、家族みんなで喜び、期待と不安でいっぱいだった入学式が、もう6年前の事です。あつという間には過ぎ、ご縁をいただいた方々のお蔭で娘共々大変有意義に過ごすことができ、心より感謝申し上げます。

入学式の時、主人が生徒の皆さんに伝えさせていただいた「とにかく学園生活を楽しんでください！」という言葉通りに娘は学園生活を過ごしてくれました。いろいろな行事の1つ1つに手を抜かず、全力でチャレンジし、本気で真剣に取り組んでいました。そんな本気の行事を見に行くことが、とても嬉しく楽しみでした。



中学の体育祭では、マスコットや衣装づくり、ダンスなど兄弟学級で一丸となり、1つのものを作り上げる一生懸命な姿に感動したのを覚えています。高校の体育会では、中学の時とは違って高校生らしい成長を感じられた楽しいものでした。ほつま祭は、テーマを決めているいろいろな方向から物事を調べ、わかりやすく素晴らしい展示をたくさん見せてくれました。また娘は茶道部でしたが、学園には本格的な茶室が日本庭園の中にありますので、日常ではなかなか経験しないお稽古やお茶会などに着物姿で参加させていたたき、伝統文化に触れることができました。これらすべての経験を支え、見守り、導いてくださった先生方、友達、金光学園に感謝しております。ありがとうございます。

ではないかと思えます。娘のこれからの人生において、学園での教えを胸に未来に向かって一歩ずつ進んでくれると信じています。また、世のお役に立てるような人間になってほしいと願っています。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、諸先生方、保護者の皆様には大変お世話になりありがとうございます。金光学園のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

出逢いに感謝

5組保護者 河本 美穂

「今日でお母さんのお弁当を食べるのは最後……おいしかったよ。今までお疲れさま」と言われ、ホッとする気持ちと同時に寂しさもまた込み上げてきました。

6年前、満開の桜で埋め尽くされた金光駅の桜並木は、思わず目を奪われるものでした。少し大きめのブレザーにネクタイ姿で不安と期待を抱きながら門をくぐった日が、つい先日の事のように思い出されます。学園生活の中で、時にはお友達とぶつかり合うこともありましたが、先生方にもご心配やご迷惑をおかけし

したが、常に向き合って接してくださいました。また多くのお友達と助け合いながら絆を深めることができ、一生付き合いたいと思える仲間にも出会えたのではないのでしょうか。

これからは様々な出会いが待っています。楽しい事もあれば辛く、苦しい事もあるかと思いますが、学園の合言葉である『人をたいせつに 自分をたいせつに 物



をたいせつに』を忘れずに、夢と希望をしっかりと抱き、自己実現を図ってほしいと願っています。

最後になりましたが、金光学園の生徒が伸び伸びと輝きながら学園生活を送りましたのは、先生方が時に厳しく、時に優しく生徒一人ひとりのことを思い、温かい愛情で見守ってくださったお陰だとか心よりお礼を申し上げます。そして、息子を支えて下さったお友達にも心から感謝を申し上げます。本当に6年間ありがとうございました。ございました。

合言葉とともに

6組保護者 仙石 正恵

卒業の日、私の胸に寂しさが広がります。6年間、息子が毎日かよった金光学園が遠いところへいってしまいうように感じるからです。

入学のきっかけは、家から近く、伝統のある私学だからという程度でしたが、日に日に金光学園への愛着が増していくのです。子どもたちの雰囲気、保護者たちの雰囲気、学園全体の雰囲気、そこに共通するのびやかな空気がとても好きなのです。

最後になりましたが、校長先生はじめ先生方には、幼かった息子を自分で自分のことを考える大人へと導いてくださいましたこと、心より感謝いたします。また、学食の皆様をはじめ、子どもたちを支えてくださった方々に心より感謝いたします。金光学園のますますのご発展をいつもお祈りしております。ありがとうございます。

子どもと共に

7組保護者 塚岡 麻紀

早いもので6年という月日が過ぎてしまいました。期待と不安いっぱいでも門をくぐったのが、つい先日のことのように思われます。5歳上の兄もお世話になりましたので、私としては11年という長い時を学園の先生方、保護者の皆様にお世話になりました。本当に楽しく過ごすことができました。心より感謝しております。

娘は兄と同様テニス部に入部しました。部員数が少ないながらも、監督や先生方の熱心な御指導、先輩方の温かい助言に励まされながら6年間続けることができました。皆の支えがあったお陰で厳しい練習にも耐えられたのだと思います。私

は娘とテニス部の仲間から、たくさんさんの感動をもらいました。試合前の緊張感、皆で声を張り上げての声援、そして共に流した嬉し涙、悔し涙。すべてが私の宝物です。

娘は幼少時、大病を患いました。「最悪3カ月と覚悟してください」と宣告されたこと、今でも脳裏に焼き付いております。病気になったことは辛かったです。娘の闘病生活は奇跡的なほどに環境に恵まれておりました。「一人でも救われることが皆の大きな希望になるのよ」と病棟の仲間にも励まされたこと。優先的に治療をさせてくれた仲間達のお気持ちに感謝し、必ず元気になって倉敷に帰ろうと心に固く誓ったことを憶えております。

あれから15年。お陰様で、人並みに元気に日々を過ごさせてもらっております。当時のお医者様、看護師さん、病棟の仲間、家族の支えなしでは今の生活はなかったことでしょうか。たくさんさんの人の力で娘は生かされております。新しい人生を歩ませていただいている今、自分に何ができるのか、たくさん悩んだ結果、医療に携わる仕事に就くため、専門の分野の大学へ進学となりました。子供から大人へ

学園の合言葉、『人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに』との出会いは、私にとっても大切な出会いとなりました。大切にするには、よく見てよく知って慈しむ、そういう様々なことが一つになってできることです。折にふれて口にするたびに自分をみつめなおして、丁寧で過ごそうと思うのです。言葉には魂が宿ると言いますが、子どもから大人へと成長していく6年間を見守ってくれているのも合言葉だと思えます。息子にとっても、この6年間は出会いの連続だったと思います。様々な個性の友人が息子のいろいろな面を見出してくれました。ほつま祭などの行事を通して、生き生きと楽しそうな姿を見ることは、親としては何よりもうれしいことでした。

寂しいと申しましたが、それほど濃密な時間だったのです。もしも、金光学園に入学していなかったら、人生の一時期をこのように愛おしく思うことはなかったでしょう。

これからも合言葉を胸に、うれしい時にも悲しみの中にも人への思いを、上手に受け止めて自分自身を信じて、これからの人生を歩いて行けると感じています。

と成長していく大切な時間を金光学園で伸び伸びと温かい雰囲気の中で過ごせたことは、貴重な宝物になることでしょう。これからは情報が溢れる社会に一歩踏み出すことになりませんが、学園で学んだ事を忘れずに自分の夢に向かって邁進してくれることを願っております。

金光学園の素晴らしい伝統を受け継がれ、さらなる発展を遂げることを心からお祈り致します。本当にありがとうございます。



道

(23)

金光 道晴

2月の下旬にあった金光教の月例祭の後に行われる懇談会に出席していた私は、参加者のお一人から「先日岐阜県で豚コレラが発生し、その後感染を防ぐために、大量の豚の殺処分が行われ、それに携わる人が、複雑な気持ちで作業をしているという新聞記事を読んだのですが、金光教ではこの命についてどう考えますか？」先生のお考えはどうですか？」と突然に質問を受けました。私はその日のテーマとは離れての予想していなかった質問でもあり、十分な答えではありませんが、次のようなお話をしました。「金光教では全ての命は神から与えられたもので、人間の命も、生き物の命も尊いものであると考えます。しかし、豚コレラや鳥インフルエンザなどを放置すれば感染は広がって行くので、殺処分もやむをえないと思います。確かにその殺処分をする人は命を絶つ作業をするので、その気持ちはいかばかりかと思えます……」などと当たり前のようなお話をし、「命の大切さについて改めて求め、考えさせて下さいたいと思います」と質問の答えにはならないようなお話をさせていたように思いますが、しかし、考えてみれば、人間は肉や魚や野菜など他の生き物の大切な命をいただいで生きてるのであります。学園では食事の前に「食物はみな人の命のために天地の神のつくり与え給うものぞ、何を飲むにも食べるにも有り難くいただく心を忘れなよ」と教祖のみ教えを食前訓として唱えますが、人間は神様がお造りになった(天地自然によって造られた)大切な命をいただいで生きてるのである

ります。豚コレラの感染を抑えるために命を奪う(殺処分)することは事柄が違いますが、改めて生きとし生けるものの「命」について考えさせられたようなことでありました。

たいということでしたが、告別式には多くの同級生や保護者や教職員が参列させていただき、心を込めて送らせていただきました。友人が涙ながらに読んだ弔辞は参列者の涙をさそい、みんな流す涙を止めることが出来ませんでした。この度ほど「命」について、それが失われた時の悲しみについて、「命の大切さ」について、そして「生と死」について考えさせられたことはいりませんでした。月が替わり3月になり、担任やクラスメートやソフトテニス部の生徒を中心に、彼を偲んでの植樹や追悼文集を作ることが提案され進められることになりました。御霊様となられた畠山君に、生徒たちの思いや願いが届けられたらと思います。改めて畠山祐汰君のご冥福を共々に心からお祈りしたいと思います。

ところで、金光学園の母体である金光教の教祖は人間の「生と死」について様々な言葉で教えてくださっています。例えば先日の卒業式の記念品として卒業生に贈った「天地は語る(金光教経典抄)」の中にも「生と死について」その一部であります。次のように示されています。

・「生きている間も死んだ後も天と地はわが住みかである。生きても死んでも天地のお世話になることを悟れよ」

・「お天道様のお照らしになるのもおかげ、雨の降られるのもおかげである。人間はみな、おかげの中に生かされて生きている。人間は、おかげの中に生まれ、おかげの中で生活し、おかげの中で死んでいくのである」

・「死ぬというのは、みな神のもとへ帰るのである。魂は生き通しであるが、体は死ぬ。体は地から生じて、もとに帰るが、魂は天から授けられて、また天へ帰るのである。死ぬというのは、魂と体が分かれることである」

・「若死にをすると、みな嘆いて心を苦しめるが、稲にも、

この2月には、人の「命」「人間の「生と死」についても、深く考えさせられる大変なことが、次々に起こってしまいました。人生八十年と言われるようになって久しくなりますが、医学の進歩や、食生活の改善などによって、人間の寿命が年々延び、最近わが国では、人生百年時代という言葉も使われるようになってきました。しかし、学園では今年度は、既に若い保護者の方が4人も病気で亡くなりになってしまいました。昨年の夏に亡くなられた、中学生の保護者の方3人は、いずれも四十代・五十代の働き盛りの年代のお父様でありました。またこれからという時にわが子を残して、逝かなければならなかった親としての思いはいかばかりであったろうかと思えます。一番最近では先日、高校3年生のお父様が卒業式の前日に、わが子の卒業を待たずに、やはり病気で亡くなられました。そして2月には高校2年生の畠山祐汰君が急逝するという、あつてはならないことも起きてしまいました。普段なら朝自分で起きてくるのに、その日はなかなか起きてこないで、お母様が起こすに行かれたら、既に布団の中で帰らぬ人となっておられたというのであります。突然17歳の短い生涯を閉じてしまったのであります。前夜はいつもと同じように食事を取り、勉強をし、床について休んだのに……。そして学校生活でも、勉強や部活動に頑張っていたのに……。ご両親やご家族にとっては「どうして？」という思いで、とても受け入れることが出来ない突然の別れが訪れてしまったのであります。お通夜は家族だけでさせてもらい

早稲、中手、晩稲とあるようなもので、早く死んでも、子供ができてから死ぬのは、実らない白穂になったのと同じである。死ぬというものは、おみみを白ひいた時、殻と実が分かれるようなものである。時が来れば魂と体が分かれるのである」

・「人間は生き通しが大切である。生き通しとは、死んでからの後、人が拜んでくれるようになることである」

などのみ教えを残してくださいませ。

仏教では亡くなった人の死後の幸福を祈るということを「冥福を祈る」といいますが、金光教では「御霊様のお道立てを祈る」という言葉を使います。亡くなられた方々の道が立っていくことを、皆様と共に心から祈らせて頂きたい思います。前述したように、金光教では死は肉体と魂が分離されると考え、体は死んでも、その御霊(魂)は生き通しであると考えられています。残された者は、その永世生き通しの御霊様に安心し、喜んで頂く生き方をしなければならぬと思うのであります。

我が国は、四季の変化に富み、自然豊かでその恵みを受け、四方を海に囲まれ、外敵の侵入もなかったもので、私たちの祖先は、古くから自然を愛し、恐ろしいものを持たなかったものであります。しかし、唯一死については、これを忌み嫌い、死後の世界を怖い世界と考えたり、それを穢れたものと捉えたりする死生観をもっていました。しかし金光教祖のように「生きても死しても天地は永久に我が住みか」として、亡くなった後も魂は生き通しで、亡くなった後も御霊様、御霊の神様として、私達に願いをかけ、お働きくださっていると考え、人の死についても何か受け入れられるような心持ちにもなることができます。改めて御霊様に守られ、御霊様に喜んで頂けるような在り方や生き方を求めさせていただきたいと思っております。

やっなみ保護者会のページ

学園サポーターとして

陸上競技部保護者 清水 裕子

ご縁がありまして、娘3人が金光学園でお世話になっております。金光学園サポーター歴も早いもので9年目となりました。

三娘とも陸上競技部で「競歩」を選び地道に練習してきました。今年卒業の次女は、楽しいことが大好きで部活動も、生徒会活動も、体育会、ほつま祭、どれも手を抜くことなくエンジョイしておりました。これも良きチャンスと、好き友、善き師に恵まれたおかげだと感謝しております。私も、子ども達のチャレンジのおかげで様々な陸上競技場にサポーターとして出向き、皆の活躍に一喜一憂し、時には世界トップ選手の競技を観戦するチャンスもいただきました。子ども達の頑張りに感化されて、私自身3年前より

走り始め、フルマラソンを完走できるまでになりました。子ども達と共に成長できているのかなあと思う今日この頃です。そんな楽しい学園生活を送る中、高3年夏休み直前に進路変更を次女から告げられたときは、かなりの衝撃でしたが、先生方の辛抱強いご指導と、競歩人としてのねばり強さを発揮してなんとか受験にこぎ着けました。

これを書いております時、折しも全豪オープンで優勝した大阪なおみ選手が、「人は常に成長を目指すべきだと思います」とインタビューで答えています。卒業する皆さんにも、少しずつで良いですから、常に「成長」を目指して、新しい世界に飛び出してもらいたいと願っております。学園サポーターとしていつまでも応援しております。

体験を胸に未来へ

音楽部吹奏楽団保護者 服部 乃里子

息子が金光学園に入学し、早いもので5年が経とうとしています。今彼は中学の頃から続けてきた部活動の卒業に向けてラストスパートをしている時ですが、親としましてはやり切ったと思える様な最後の舞台を迎えてほしいと応援している所です。

音楽部吹奏楽団は今年創部百周年を迎える所です。長い歴史の中、部内の活動はその時代に応じて変わってきている部分がありますが、音楽を通じて様々な経験をさせて頂いている事は創部の頃より途切れる事なく続いていると思います。息子も入部以来たくさんの経験をさせて頂きました。その中でもやはり二度の海外訪問演奏は心に残るものだったようです。一度目は中1の時に韓国へ。二度

目は高1の時にアメリカに行かせて頂きました。英語の会話能力は足りなくても音楽が人と人を繋いでくれる経験は、とても大きな物だったようです。

今年度学園をご卒業される第71回卒業生の先輩方とはこの二度の海外訪問演奏と一緒に経験させて頂きました。部員数が他学年より少ないという状況ながら、演奏会をまとめ後輩の息子達を丁寧に導いて下さった事、心から感謝致しております。卒業して次のステージへと進まれても学園生活での体験がこの先に学ぶたくさんの知識と融合して大きな力になると信じております。

また大きな経験と共に日々の小さな積み重ねも子供達の心の支えになっていくと思っております。毎日の朝練に出席する為に冬には陽が昇る前に家を出る努力をした事、大勢の部員の心をひとつにまとめる大変さを学んだ事等々。今後の人生の中で役に立つ時があるのではないのでしょうか。

我が家の息子もまずは部活動の最高の卒業を目指し、その先は楽器をペンに持ち替えて学園の卒業に向けて進んでいってほしいと願っています。

母校

硬式野球部保護者 原田 圭治

卒業おめでとうございます。ずいぶん昔の話になりますが、私も金光学園で学び、巣立った第32期卒業生です。6年間、とても幸せな時間を過ごしました。そして、それは誇りでもありません。

中学入学、高校進学と6年間を過ごせば卒業となるわけですが、平穩無事に卒業することの難しさを、親の立場となり改めて思い知りました。担任の先生、クラブの先生、多くの先生が子供達に関わり、はげまし、ご指導くださっていたかを、ありがたく実感しています。先生方からの教訓、友人達との語らい、思い出が、卒業生の指針となり、支えとなってくれると思います。

今、私はまた金光学園を卒業するような不思議な気持ちです。野球部の応援で通ったグラウンド、保護者会で、授業参観でおとずれた教室、記念講堂、体育館、たくさんのお出がができました。いつでも帰ってこれる学校「母校」金光学園は、私たち卒業生にとってかけがえのない場所です。

高3サッカー部先輩たちへ捧ぐ

サッカー部保護者 長野 理絵

3年生の皆さん、保護者の皆さまご卒業おめでとうございます。私は現在高2の保護者です。我が息子が中1の時サッカー部へ入部してから5年間、一学年上の先輩たちと共に部活に励み、我が子を通して先輩たちの成長を見ているうちに我が子以上に愛情を感じるようになった次第です。今回この場をお借りして5年間の感謝の気持ちを伝えさせて頂きます。

入部して間もなく、週末毎に開催される試合の観戦。先輩、後輩関係なく共に練習に明け暮れる日々。暑い日も寒い日も、どしゃぶりの雨の日も一生懸命ボールを追いかけて、勝敗の世界の厳しさを知り、それでも笑顔が忘れず、時には叱咤しながら一つ下の頼りない子供たちを指導してくれた先輩たちの姿は時には頼もしく、時には愛おしく感じられ、試合観戦することが自身のライフワークでもありました。中でもインターハイ県予選へ駒を進め初戦をPK戦から突破した試合は、生涯通して忘れることが出来ません。今思い出しても胸が高ぶり、高揚してきます。

生徒入賞作品

入賞おめでとう

▼雨活アイデアコンテスト2018
作文部門 佳作
中1 大村 朋也

▼平成30年度 中学生の税についての
作文・習字

岡山県納税貯蓄組合総連合会長賞
中3 赤沢 梨吏

玉島税務協力会長賞
中3 石原 采佳

公益社団法人玉島法人会長賞
中3 吉田 未来

▼第64回青少年読書感想文
岡山県コンクール

入選
中2 宮野 凌輔
中2 遠藤万結香
中3 浅野結衣梨
岡邊こむぎ
山口 祐紀

先輩たちのおかげで、今まで見ることもなかったひとつ上の景色を見せてもらうことが出来ました。

昨日よりも今日、今日よりも明日。色々な経験から子供たちは大人の私たちには想像出来ないスピードで成長して行きます。その瞬間、その一瞬を少しでも垣間見ることが出来たこと、金光学園ですばらしい先輩たちに出逢えたことに感謝し、先輩たちの次のステージでの活躍を心よりお祈りいたします。

ありがとうございます。

編集後記

やつなみ保護者会教養部

福嶋 志津子

今年度、初めて評議員のお役を受けさせていただきました気が付けば1年が過ぎようとしています。評議員とはどんなことをするのか分からないまま最初の役員会で教養部の担当になりました。統率力のある部長をはじめ、ご縁のある部員たちで協力し合い、先生方や三役の方のアドバイスをいただきながらここまで楽しく役員生活を過ごさせていただきました。

会報

第五回評議員会 2月21日 13時30分～

14時10分。甲田副会長司会。内容は以下のとおり。一、横藤田会長挨拶。二、協議事項。①平成31年度会長・副会長・監事選出の選考委員を決定。選考委員長、祢屋緑。選考委員、池田真紀子、安達祐子、福嶋志津子、渡邊美軌、片山由恵。②平成30年度決算見込みについて。③友愛セーブル収益金の使途について。④平成31年度保護者会総会の日程。4月27日(土)に決定。講演講師が陰山英男先生に決まったことが報告された。

第三回全役員会 2月21日 14時20分～

15時40分。甲田副会長司会。役員会の内容は以下のとおり。一、横藤田会長挨拶。二、金光校長挨拶。三、学校近況報告。(横山教頭)四、協議・報告事項。①指導・教養・庶務各部から年間総括と次年度への申し送り事項。②研修・出張報告。③平成30年度会計決算見込みの報告。④平成30年度友愛セーブル売上金の使途につ

教養部の主な活動は、研修旅行のプラン提案や「やつなみ保護者会のページ」の原稿依頼です。旅行プランを立てる際には部員たちがここぞと思う場所を出し合い、時間的・予算的に可能な範囲内で検討しました。そして今年度は「ルミナス神戸2」に乗ってランクルーズバイキングを楽しみ「人と防災未来センター」にて防災研修を行いました。参加いただいたみな様と素敵な添乗員さん、先生方のおかげでとても充実した研修旅行となりました。

そしてこの1年、快く原稿依頼を引き受けてくださったみな様のおかげで今年度のやつなみも無事完成いたしました。ありがとうございます。

ほつま祭の事前準備から、前日・当日の担当を役員の方々と代理で参加くださったみな様。多大なるご尽力をいただき感謝いたします。

この1年役員をさせていただき子どもと共に少しは成長できたかと思えます。これからも学園の様子をアピールできますよう祈念しております。

いて⑤平成30年度会長・副会長・監事選出の選考委員決定の報告。⑥平成31年度地区委員・評議員選出について。⑦金光教春の大祭の湯茶接待奉仕のお願い。⑧教職員外部診断のお願い。⑨平成31年度保護者会総会について。六、その他連絡事項。七、佐藤副会長による閉会挨拶。

諸会合

○1月23日 幼小中中高PTA連合研修大会(岡山) 横藤田会長、定平・佐藤副会長、亀山・三原監事、池田・加賀評議員、佐藤副校長、横山・山本教頭が参加。
○1月25日 学校保健委員会 定平副会長、池田指導部長が出席した。

表紙の言葉

中1 小林なな子

「紅梅や 枝々は空 奪ひ合ひ」
この俳句を読んだ瞬間、ぱっと辺り一面華やかに紅梅が咲いている様子が思い浮かびました。もう、これしかないと思いました。華やかさを表すために、1つ1つの花びらを大きくし、紅梅が空を奪い合っている様子を描きました。また、力強さを表すために、枝を太く描きました。そして、紅梅を見上げて気持ちが高ぶっている自分を表現するために、束ねた髪をフワッと浮かばせ、明るくとびっきりの笑顔を描きました。いつか実際にこの風景を見てみたい





を振り返ったり、他のツアーや研修に参加した人たちと交流したりしました。これからも自分の経験を伝え、いかし、新しいことにどんどん挑戦したいです。



向きの宿泊プランを提案した金光学園高校と興譲館高校の合同チームが、応募総数4359件の中から、ベスト20にあたるセミファイナリストに選ばれました。チームは、金光学園高校2年の長田紘毅くん、服部直樹くん、平井普於くん、吉田匠一郎くん、渡辺陽くん、興譲館高校3年生の6人です。以下は、服部くんの感想です。

かめのリフォーラム2019に参加

高2 田中 茉莉子

1月11・12日に、東京都アルカディア市ヶ谷でかめのリフォーラム2019が行われ、高校2年生の田中茉莉子さんが参加しました。かめのリフォーラムでは、日本とアジア・オセアニアの交流を目的にした奨学生やプログラム生の体験発表や交流が行われました。以下は参加しての感想です。

私は東京都で行われたかめのリフォーラムに参加しました。昨年の夏、私はカンボジアスタディーツアーに参加しました。今回のフォーラムではツアーのメンバーと再会し、ディスカッションを通してツアー



弓削育之先生 教職員卓球選手権大会で好成績を収める

弓削育之先生



が第30回記念岡山県教職員卓球選手権大会において、特A級男子シングルスで準優勝、A級男子ダブルスで優勝、A級混合ダブルスでベスト4という好成績を収められました。「選手としてプレーできるのは先生方や周りの方々の支えがあるからです。常に感謝の気持ちを持って日々を過ごしていきます」と語る弓削先生のますますのご活躍をお祈りしています。

高校生ビジネスプラン

第6回高校生ビジネスプラン・グランプリで、福山城を活用した外国人観光客

活躍おめでとう

《高校バレーボール部》

第27回中国高等学校

新人バレーボール大会優勝

高2 市川 翔太

2月8～10日に、広島県で開催された中国新人大会に出場しました。予選リーグは3チームの総当たり戦。そこを通過し、準々決勝、準決勝、決勝を勝ち進みます。私たちは予選リーグ、準々決勝、準決勝を無事通過し、決勝へと進みました。決勝では山口県高川学園高校と試合をし、セットカウント2-1で勝利し、優勝することができました。今大会はチーム一丸となり、さらに先輩や保護者など多くの方々に支えられて優勝することが



できました。これからも感謝の気持ちを忘れず、優勝目指して頑張っていきたいと思えます。

《トランポリン》

第10回都道府県対抗トランポリン競技選手権大会

2/15(金)～17(日) 静岡県掛川市

中2 守分 梨子

今回で4度目の都道府県大会。私は今14歳ですが、15～16歳の部に出場しました。トランポリンの盛んなクラブの選手の技は本当にすごく、アップの時も他の選手の圧を強く感じました。大会の1ヶ月前に左足首捻挫と左肘の靭帯を損傷して、強化練習で新技に挑戦できるチャンスを逃してしまい、とても悔しい思いをしました。それでも昨年より宙返りを3つ増やし、難易度を上げてなんとか成功。全国レベル



第8回おかやま新聞コンクール「新聞づくりの部(中学)」最優秀賞受賞

中1 田中 希莉子

私は、おとしの秋に、笠岡市地域おこし協力隊の相澤さんのワークシヨップに参加して「麦稈真田(はつかんさなだ)」に興味を持ち、そのことを新聞にまとめました。表彰式に相澤さんも同席してくださり、展示してある新聞の前で、麦稈真田に興味を持ってくださる人もいたのでうれしかったです。今年、麦を植えたので、それをストロークにして何か飲み物を飲んだり、麦稈真田を編んで作品を作ったりしたいです。



受け継がれてきた伝統文化、 能楽師という仕事

田口 亮二（高55回）



本には人間の生死や喜怒哀楽といった普遍性をもった芸能です。

さて、私は能楽を嗜んでいた祖母の影響で幼い頃から舞や謡を習っていたことから能を身近に感じており、もっと能楽のことを学びたいと考えるようになっていました。

金光学園在学中、卒業後の進路を考えるにあたって東京藝術大学には日本で唯一、能を勉強できる課程があることを知り受験することを決めました。

能楽専攻の受験には舞と謡の実技試験があるのですが、もうひとつ音楽理論の筆記試験も課せられており不安に感じていましたので、学園の先生に相談し放課後に教えて頂いたり大変お世話になりました。そのおかげもあり東京藝術大学に合格することができましたが、入学し

てからの日々は普通の大学生活ではなく、とにかく稽古ばかりの毎日でした。

藝大の校内には能舞台があり、下級生は早朝の舞台拭きから一日が始まり、自分の専攻の謡や舞の他に笛・小鼓・大鼓・太鼓の四拍子のレッスンを受けなければなりません。

もちろん外国語や一般教養科目の授業もあるので慣れない頃は大変だった事を覚えていきます。

通常、芸の道においては師匠に教える請うものです。前述のように私の最初の師匠は祖母でしたが、故郷を離れ祖母の稽古を受けることが難しくなっていました。それ故、当時東京藝術大学の教授もなさっていた野村四郎先生（観世流職分・人間国宝）に師事する事になりました。

学外では師匠の稽古場に通い、師匠の身の回りのお世話をはじめ内弟子としての心得を学ばせて頂きながら藝大にも通っていましたので、いま振り返ってみますと入学してからは毎日が合宿のようでした。

特に藝大在学中とても印象深く残っているのは、二十六世観世宗家 観世清和先生に2年間に渡り直接謡を教えて頂いた事で、非常に貴重な体験をさせて頂きま

「能楽」とは観阿弥・世阿弥親子が大成させた室町時代から続く日本の伝統芸能で、能面と呼ばれる仮面を着けて演じられる音楽劇です。

五穀豊穡を願ったり、源氏物語や平家物語等の古典文学の人物が登場したり、或いは草木の精や天狗や鬼が登場したりと多彩な内容を演じます。非現実的で奇抜に思われるかもしれませんが、その根

した。

かくして4年生になり、一般の大学では卒業論文を執筆するのですが、藝大では卒業演奏をもって卒業の可否が決定されます。

私の場合は坂上田村麻呂がシテ（主人公）の能「田村」という演目を舞わせて頂きました。能の演奏形式には物語の見えるところの一部だけを紋付袴姿で地謡と呼ばれるバックコーラスのみで行う「仕舞」、これに囃子が加わる「舞囃子」、そして面・装束を着けて物語一曲すべてを行う「能」等があります。卒業演奏試験は「能」の形式で行うので、普段の稽古では着けることのない面や装束を着けて舞います。視界の狭さや装束の重さに戸惑いましたが、最後まで演じることが出来ました。

藝大を卒業してから観世流能楽師を目指す事を決意した私は、師匠のもとで修行をさせて頂く事になりました。

観世流の能楽師になるためには5年間の研修を終えなければならぬ他に、御家元と師



匠のお許しが必要ではありません。

研修生として師匠のお付きをしたり、様々な公演の楽屋で舞台を拝見させて頂いたりして少しずつ舞台上に出て勉強させて頂ける様になり、藝大を出てから10年間の修行を経て、昨年末の独立披露の会で「敦盛」という演目を演じ、これをもって内弟子を卒業し晴れて独立させて頂く運びとなりました。修行中に師匠から度々言われたのは、世阿弥の「風姿花伝」にある「是非初心忘るべからず」という言葉です。これは「若い時に苦労して身につけた技や経験は常に心に留めておき、これからの芸の上達や成功の糧にしなさい」といった意味で、今でも常に心がけるようにしています。

能楽師という仕事は色々な場所での舞台公演やワークショップ、アマチュアの

お弟子さん達に謡や舞を教授したりといった内容が大半です。仕事をしながら、日本の伝統文化・無形文化遺産である能楽を見た事が無いという方に沢山の山出会いました。

能は古典文学がテーマの曲も多く、言葉も古語で分かりづらく派手な動きが少ない事に加え、他の演劇に比べ舞台上には物語の背景を表すような小道具やセツト等はほとんどありません。そのうえ、シテ（主人公）は面を着けているので表情も読み取りにくく鑑賞しているのが感じがちです。情報量が少ないぶん自身で多種多様な感じ方、捉え方を出来るのが能を鑑賞するうえでの魅力だと言えます。

また最近では事前講座を行ったり解説を出したり、あまり能を見たことが無い方にも能楽を身近に感じて貰える様になってきています。

より多くの方に能楽に触れて頂きたいと思うと共に私自身もより一層芸を磨き、これからも精進していく事で若い人達にも能の魅力を伝えていければと思います。

略歴

- 平成16年 東京藝術大学音楽学部邦楽科 能楽専攻に入学
- 平成20年 観世流職分野村四郎に入門
- 平成28年 観世流準職分に認定
- 平成30年 能「敦盛」にて独立

中1学年集会 2月15日(金)

「冬の寒さにおやこドン」

一致団結する喜び

1組 宮原 鴻志

僕は学年集会を終えて、クラスや学年みんなと一緒に一致団結する喜びを知った。学年集会の第1部「おやこドン・タイム」では、〇×クイズと五色綱引きに参加した。〇×クイズでは、先生のおもしろい情報や、他の情報を問題にしている、とてもおもしろかった。実行委員が今日のためにがんばったんだなとしみじみと感じた。

2つ目の五色綱引きが、この学年集会で一番楽しめたと思う。最初は2組との対決で、みんなで作戦を考えた。僕はスタートの笛が響き渡るのと同時に、緑色の綱を思いっきり引つ張り、自分達のものにした。とても大変だったが、4対1で勝利した。続いての4組との対決は3対2で惜しくも負けてしまった。しかし、

終わった後、達成感を得ることができた。最後はみんなでおしかつたねと笑うことができた。

学年集会の第2部「つながる！ おやこドン」では、「ふるさと」と「つながる空」の2曲を歌った。親が見ているが、不安な気持ちは全くなかった。2曲とも出だしはうまく歌うことができた。途中歌詞を忘れるという事もなく自分としては上出来だと思う。2曲とも終わった後、拍手が聞こえ、とてもすがすがしい気持ちの良い感覚になった。やり終えた、その気持ちしかなかった。親もあとでほめてくれ、とてもうれしかった。

学年集会を終えて、仲間と喜び合うことの楽しさを改めて知った。もうすぐ2年生になるが、1年生のお手本になれるような、カッコいい先輩になりたいと思う。

中1の集大成

2組 大村 朋也

2月15日、今日は中1で最後の参観日だった。いつもは授業参観があるけれど、今回は「冬の寒さにおやこドン」というテーマで、親子でゲームをしたり、合唱を聞いてもらったりした。

る。いろんなことにチャレンジして、有意義な学校生活を送りたいと思う。

学年集会と入校時合宿

3組 梅村 泰勝

今日の学年集会では印象に残ったことが3つありました。

1つ目は、みんなが競技をしているときの応援です。頑張っているときに、「頑張れ！」や、間違えたり負けたりしたときは「ドンマイ！」などの声が聞こえてきて感動しました。

そして2つ目は、僕が出た五色綱引きです。綱引きの時は、みんなでかけ声を決めてひっぱりました。結果は3位でしたが、みんなの絆を感じることができました。

そして3つ目は、合唱です。ぼくは最初練習しているときは、まったく歌詞も音程も分かりませんでした。でも、みんなと一緒に練習していると、だんだん分かるようになってきました。入校時合宿のときは金光学園歌はさっぱり分からず、歌詞を覚えるのもみんなよりもものすごく遅かったです。でも、今日の学年集会は入校時合宿のときよりは覚えるのも早



当日行うゲームの内容は、実行委員の人たちが中心となって決めていった。当日の会場準備はみんなが協力して行った。僕は、〇×クイズと五色綱引きに参加した。〇×クイズでは、最初の問題あたりで早々に脱落してしまい、他の2組の人達も勝ち残ることができなかった。五色綱引きでは、早く綱をつかむことができたが、相手の方が強くて引きずられてしまった。3位決定戦では両者とも2本綱を取っていて、3本目の綱でも負けて



く、音程もきちんとすることができました。そして、ぼくは練習をしているときに、いろんな先生から「もっと顔を下に向けてあげよう」と言われました。確かに、みんなは前を向いているのに、自分だけ下を向いているのは目立つなと思って、本番までには直しました。だから、歌のときは自分としては自分の力を出し切ったと思います。

今日の学年集会は、ものすごく入校時合宿と似ているなと思いました。そう思うと、自分も成長したなと思いました。

母の大活躍

4組 松岡 匠音

今日の学年集会は、いつもの参観日と違って保護者と一緒にゲームやクイズをするものだった。実行委員の人が内容を工夫して考えたり、僕たちも第二部の合唱の練習を一生懸命したりして今日の日を迎えた。

体育館はとても寒かったけれど、たくさんのお父さんやお母さんが来ていて、僕のうちは母が来てくれていた。



プログラムの最初の「親子で〇×クイズ」に僕は参加した。ふと見るとうちの母もクイズに出ていた。最初はなんだか盛り上がりがない感じがしたけれど、おもしろい問題がどんどん出され、勝敗が関わってくる、僕たちもお父さんお母さんたちも盛り上がり始めた。1回戦はあと一問で最後まで残れそうだったけれど、最後の賭けに負けて残れず、悔しかった。イントロクイズでは、背の高いお父さんが連続で当てて大活躍しているのを見て、楽しかった。

母はクイズに出ていたので、もう出ないと思っていたら、二人三脚にも出ていたので驚いた。遅かったらどうしようと思っていたけれど、1位だったのでほっとした。

一番盛り上がったのは、五色綱引きだ。僕は出なかつたけれど、最初の1組と2組の対戦は、一瞬で勝敗が決まったので、ゲームの説明通り力ではなく頭を使う綱引きだと思った。大人数のクラス対抗だったので、すごく盛り上がった。決勝に残った4組は円陣を組んで挑んだ。母はまたまた出ていたけど、相手に引つ張られて転んでまでがんばっていた。接戦だった



探究 授業報告

探究(中3)

〇デイベート

3学期は論理的思考力、批判的思考力さらに伝える力を養う目的でデイベート大会を行いました。各グループで肯定側、否定側の論点を共有して事前調査し、グループ大会に臨みました。予選のテーマは「AIが人間に変わるか」「新入管法について」、準決勝のテーマは「裁判員裁判について」、決勝のテーマは「10月からの消費税10%への増税は是非か」でした。社会問題について考えるよききっかけになりました。

探究Ⅰ(高1)

統計の基本的な考え方を学習し、グループに分かれてコンクール、発表会に向けて課題研究に取り組み、ポスターを作成しました。また、次年度探究Ⅱを選択する生徒は研究テーマを決めるために文献検索、先行研究調査などを行いました。

探究Ⅱ(高2)

〇ゼミ活動

これまでに取り組んできた研究のまとめとして、英文アブストラクトにも挑戦した研究論文を完成させ、論文集として発行することができました。

3月9日に本校で実施した探究活動成果発表会では、文系ゼミはスライド発表、理系ゼミはポスター発表を行いました。英語発表に挑戦したテーマも7本ありました。各分野の専門の先生方や海外の留学生に助言者として参加していただきました。

各種発表会への参加

12月1日に神戸大学で開催された「第3回電気化学研究会高校生チャレンジ」に化学ゼミの泉さん、河村さん、遠山さんが出場し、奨励賞を受賞。

12月15日に東京国際フォーラムで開催された「SGJ全国高校生フォーラム」に教育ゼミの田中さんが学校代表として出場。

12月15日に兵庫大学で開催された「第4回現代ビジネスプラン・コンペ」に人

文学ゼミの渡辺くん、守分さんが出場し、優秀賞を受賞。

12月15日に中国学園大学で開催された「第5回高校生プレゼンテーション・コンテスト」に人文ゼミの平佐さんが出場。

1月27日に岡山理科大学で開催された「集まれ! 科学への挑戦者」に化学ゼミの神処君、泉さん、河村さん、遠山さんと天文ゼミの詫間君、八方君が出場し、天文ゼミが優秀賞を受賞。



出合いに感謝

佐藤 洋平

私が陸上競技と出会って30年になる。小学校6年生までの私はかなりの「チョロスケ」だった。悪さを悪いとも思わず、毎日楽しく過ごしていた。そんな私を見るに見兼ねたある先生が、出来たばかりの地域の陸上クラブに誘ってくれたのが陸上競技との出合いだった。テレビでよく聞く、喧嘩っ早いお兄さんが周りに進められてボクシングを始め、いずれ活躍の場を広げていく……正にそれである。

その後の高校から陸上競技部に入り、本格的に陸上競技を始めるわけだが、入部当初はほぼ素人。田舎の陸上クラブで活動はしたものの、中学校ではサッカー部や野球部に所属したため、陸上競技の大会に出場した経験はほとんど無く、ただの、地元で足が速い子”だった。進学した高校は全国区の学校で、同級生には県のトップ選手がずらり。インターハイ

で優勝・入賞する先輩も多く在籍する強豪校だった。当然、練習にはついていくだけで精一杯、ただ必死に練習メニューをこなす日々。しかしそんな毎日は無駄にはならず、記録は徐々に伸びていった。金光学園陸上競技部の合言葉「継続は力なり」「練習はウツをつかない」とおりである。

このように陸上競技にのめり込んだ私には、恩師や先輩から貰った忘れられない言葉が3つある。

県大会でも入賞するようになり、国民体育大会の選考試合で優勝した私は、選ばれる前から岡山県のユニホームを着て活躍するイメージを膨らませていたが、見事に落選した。愚痴をこぼすと、代表の座を掴んだ先輩から即答で返ってきたのは「そりゃ、おめえが弱えけえよ」という言葉だった。これが1つ目の忘れら

れない言葉だ。今でも鮮明に覚えている

この言葉は「技を競う」競技の世界で、自分がどれほど調子に乗り、また勘違いしていたかをストリートに教え、正しくくれた。今は部活動の指導者として、あの頃の私と同じように、後のない戦いに臨もうとする部員達と、毎日向き合っている。夢叶わず涙を流す競技者には、「よくやった」の意味を込めて「弱かったから負けたんだ」の言葉を贈る。厳しい言葉だが、この言葉を受け止め理解してくれる生徒達と縁があったことに感謝しな



がら、必ず伝えるようにしている。

2つ目は8年前までこの学園で指導を頂いた先輩、尊敬する中嶋仁先生から貰った「君は強くなるよ」という言葉である。高校3年生の時、岡山県の合宿に参加した私は、合宿の最後に競技場のゴミ拾いをしていて、それを見つけられた中嶋先生は遠くから近づいて来られ、「おー、君は絶対に強くなるよ」と、とても力強くおっしゃって去って行かれた。この頃私は、大学で頑張れるか不安を抱いていたのだが、中嶋先生のその言葉とパワーに不安が一掃された気がした。そして迷いを捨て、希望を膨らませて進学することができたのだ。が、後に中嶋先生にこの話を伝えると、「私はみーんなに言うからのー、覚えてないのー」というオチまで持っていた。やはり凄い先生である。一度県外に出た私が岡山に戻り、教員になるきっかけを作ってくださったのも中嶋先生だった。あのゴミ拾いのお出合いが無ければ今の私はなかったかもしれない。こんなに長く陸上競技と関わることもできたかどうか。先生との出合いに感謝し、これからも勝手に第二の父と慕い続けさせていたたく。

3つ目は私が目標としている大学時代



の恩師から卒業式の日にいただいた言葉「青は藍より出でて藍よりも青し」である。目の前でのこの言葉を色紙に書きながら、「私が30年かけて学び、実践してきた考えや動きを4年間で伝えたつもりだ。だから今の知識も私と同じ、これから先の陸上競技人生はお前の方が長いだから、しっかり活かしなさい」と話してくださった。もともとと真剣にお話を聞き学ぶべきだったと猛省するとともに、当時の恩師と同じ年になった今も心に残る、有難く重い言葉で送りだしていただいたことに感謝している。

最後に、現在陸上競技部は、中学・高校合わせて約40人で活動している。指導者としての私の夢を一緒に追ってくれる部員達と出会えたことと、週末は引率でほとんど家にいない私を叱咤激励と共に送り出してくれる妻、よく食べよく笑う2人の子供に感謝。

2018年度 1年間で140名の外国のお客様を受け入れました。金光学園の国際化教育・グローバル人材の育成が大きく進んでいます。

2018年度の取り組み

月	取り組み
4月	4/9(月)～1/31(木) AFS留学生(フィンランド)
5月	5/11(金) 岡山県国際課「国際理解講座」講演(オーストラリア)+囲む会
6月	6/1(土) 台湾Ying Hai High School 生徒29名・引率3名
7月	7/30(月)～8/1(水) Konko Gakuen Summer English Village 2018《前期》 参加41名 ネイティブ講師4名
8月	8/6(月)～7(火) English Camp 生徒24名 留学生4名 教員8名 8/20(月)～22(水) Konko Gakuen Summer English Village 2018《後期》 参加30名 ネイティブ講師3名 8/27(月)～2/14(木) アジア架け橋プロジェクト留学生(モンゴル)
9月	9/4(火)～9(日) 韓国・春川女子高校第9回姉妹校交流《受入》 生徒15名 引率3名
10月	10/5(金) 京都アメリカ大学コンソーシアム《台風接近のため中止》 10/19(金) 日中植林・植樹国際連帯事業 中国高校生来校 生徒30名 引率4名
11月	11/15(木) [EUがあなただの学校にやってくる] ドイツ共和国総領事 講演+囲む会 11/14(水)・21(水)・28(水) 国際交流クラブ「英語であそぼ」 TA 2名(ケニア・カンボジア)
12月	12/15(土) 国際交流クラブ「クリスマス会」 参加15名 ALT 3名(イギリス・オーストラリア)+留学生1名(ガーナ) 12/21(金)～24(月) 金光学園エンパワメントプログラム 参加30名 留学生6名(オーストラリア・ニュージーランド+ファシリテーター1名(アメリカ))
1月	
2月	2/20(水) 保護者国際交流サークル交流会 TA 2名(ケニア・ガーナ)
3月	3/9(土)「探究活動成果発表会」ALT・留学生との昼食交流会 16か国27名(イギリス・オーストラリア・ケニア・ベトナム・アフガニスタン・インドネシア・カンボジア・インド・マラウイ・エジプト・ガーナ・ウズベキスタン・エチオピア・タンザニア・ソロモン諸島・イエメン)

韓国・仁川英語村研修 7/30(月)～8/6(月) 生徒22名 引率2名
イギリス短期語学研修 3/19(日)～4/1(月) 生徒20名 引率2名
オーストラリアRadford College 姉妹校交流 3/19(日)～27(水) 生徒22名 引率2名

金光学園の国際化教育の取り組み

国際化教育推進委員会

留学生紹介

3学期始業式 スピーチより

アジア高校生架け橋プロジェクト留学生
モンゴル
ニヤムバヤル・ブヤンバト(ジンク)

みなさん、おはようございます。私はモンゴルから8月25日に金光学園へ来ました。私が学園に来たばかりのころは先生や生徒たちがはなしていることがりかいてきませんでした。しかし、毎日たかひし先生と日本語の勉強をし、少しずつみんなとコミュニケーションを取れるようになってきました。学園で日本のれきしとぶんかを学びました。とてもよかったです。



私が初めて部活に行ったときのことです。トイレに行きたくなくて外のトイレに行ってみたら、かんで書いていたのかわからないまま入ってみると、すべてすわるぶんきだったのでおかしいと思いました。外国の生徒が沢山おとずれるので絵や英語のひょうしきをとりいれるべきだと思いました。

さいごに
人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに
ありがとうございます。

AFS留学生
フィンランド

サンニ・ツオミネン(サンニ)

みなさん、おはようございます。

なぜかこのいちねんははやくおわりました。きたときはほんごはちょっとだっ

たけど、まいにちにほんごをはなしながらだんだんじょうずになりました。



にほんのせいかつをけいけんして、にほんのぶんかもけいけんして、わからないこともいっぱいあつたけど、それはいいべんきょうになりました。いろんなひとあえてうれい、ともだちができてうれい、このがっこうにかよわせてくれてありがたい、ありがとうございます。きょうりよくてきて、しんせつなせんせいたちもありがたいです。みんなのせわになりました。くらすめいともありがたい、ぶかつのみんなもありがたい。たくさんをけいけんしてかえりますからうれい。これはわたしのさいごのあいさつになりました。けど、さいごまでよろしくおねがいします。

みなさんこのいちねん、ありがとうございます。

ある日のホームルーム

中学2年1組



中学2年1組では2月の学年集会の取り組みが始まっています。最初に担任の山路先生がHRの説明をします。生徒たちはそれに聞き入ります。学年集会は4月に控えた沖繩修学旅行の事前学習の発表の場で、さらに、クラスごとの発表を通して団結を強くする、という目的があるようです。保護者の方も見に来るということ、教室ではそれぞれのリアクションが飛び交います。気恥ずかしいという様子でお互いの顔を見合わせたり、実際に驚嘆の声をあげたり。緊張もするようですが、それぞれの仕切りで話し合いは続きます。

過去の先輩の発表例を参考に、1組らしい発表をするにはどうするか、全員でステージに立つにはどうしたらよいか、をみんなで作り上げていきます。クラスではうねりをもってどんどん話し合いが進んでいきます。さあ、最終的に話がま

れます。落ち着いた空気をもつ女子たちも楽しそうにしています。1組のみなさんは個性豊かで様々な色をなしていました。クラスの目標「友々笑いあり、涙あり、前向きに」を実践してお互いを高め合ってきたこの一年間。これだけ勢いのある1組ですが、じつは1学期はすごく大人しかったそう。いろんな行事を通して、絆を深めてきたことが今回の学年集会で発揮され、当日も目的を果たしてくれていると思います。

多感な時期に34名が一つにまとまることは簡単ではありません。これまで同じクラスで過ごしてきた仲間同士が協力する。そのときのプレゼンや歌声は観る者を感動させてくれることでしょう。2月14日、本番での成功を祈っています。

(これまで学んできた戦争の悲惨さや沖繩の文化や歴史をクラスでプレゼンテーションする1組。学年集会当日の発表風景や全体合唱の写真を掲載しております)



生徒会活動

《高校生徒会》

2月8日(金)、第2回生徒会総会が行われた。今年度の各種専門委員会、学年代表者会議、執行部の年間総括について審議され、すべて原案通りに承認された。運営は円滑に進み、舞台で発言した各種専門委員長、学年代表者会議議長、執行部からはいずれも堂々とした態度で発表を行い、質問や意見に対して誠実に答えた。

《科学部》

10月14日(日)に浅口市ふるさとこもがたプラザビッグハットで行われた2018年青少年のための科学の祭典笠岡大会に15名の部員が参加し、カルメ焼きのブースで地域の小学生等と共に楽しく実験を行った。

《新聞部》

高校卒業式ではつま新聞205号を発行した。

《天文部》

1月19日〜20日に美星天文台で、研修合宿を行った。あいにくの曇天であったが、変光星やスペクトル観測について学習し、銀河のスペクトルについての解析作業を行い、銀河の回転速度を求めた。

《茶道部》

1月に初釜を行い、濃茶の練り方やいいただき方も教えていただいた。

《音楽部吹奏楽団》

1月26日(土)に笠岡市民会館で開催された【第62回高梁川流域高等学校音楽会】に参加し、オープニングとして「歓びの歌」の参加者全員による合唱の伴奏を演奏した。また単独演奏では「ハリウッド万歳」「明日はきっといい日になる」を演奏した。2月11日(月)に倉敷市民会館で開催された【マーチング・ステージ・イン・オカヤマ】に参加し、「グレイテスト・シヨーマン」を演奏、感謝状を連盟より授与された。2月12日(火)にさん太ホールで開催された【岡山ドリームプロジェクト〜奥村幸治講演会】において金管5重奏で参加、「栄冠は君に輝く」を演奏した。

《音楽部コーラス》

11月10日(土)金光公民館で開催された金光町音楽祭に参加した。【曲目】踊るポンポコリン、アイデア、ほらね、

11月11日(日)福山市の老人ホーム「なごみ」の秋祭りに招かれ、訪問演奏をさせていただいた。施設利用者の方ともたくさんお話をするなど交流も深めることができた。

12月22日(土)イオンモール倉敷のクリスマスイベントに出演した。初めての場所でも緊張もあったが、応援にいられた保護者や友達もたくさんおり、楽しく演奏できた。【曲目】踊るポンポコリン、時の流れに身をまかせ、また会う日まで、アイデア、クリスマスソングメドレー、湯かむり唄、ほらね。

1月25日(土)笠岡市民会館で開催された高梁川流域高校音楽会ジョイフルコンサートに参加した。【曲目】男の勲章、いのちのリレー

2月17日(日)倉敷芸文館で開催された岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテストに参加した。結果は中学の部で銀賞、高校の部で金賞と銅賞を受賞した。【中学の部】(銀賞) 河童、なんとなんととなん

天草公園体育館で開催され、女子個人試合で渡邊（3年）がベスト8、新谷（1年）が第3位。男子個人試合は浅野、小林、田中（いずれも2年）が2回戦敗退。団体試合は第3位であった。

〔第65回玉島剣道大会〕 11月25日（日）玉島の森玉島体育館で開催され、1回戦敗退であった。

〔第40回岡山県中学校1・2年生大会〕 平成31年1月20日（日）備前市日生総合運動公園体育館で開催されたが棄権した。

《中・高剣道部》

〔記念新年稽古会〕 今年には金光教立教百六十年、金光学園創立百二十五年、剣道部創部百十五年の年にあたり、心より祝意をあらわし、日々のおかげに感謝し、先輩方の築かれた永き良き伝統を守り伝えることを趣旨として、1月2日（水）に現役部員で標記の記念稽古会を開催。今後のさらなる発展を願い、金光学園教育の合い言葉・精神、剣道理念の原点に立ち返り、内面のいつその充実を図ることの決意をあらたにした。その後、OB・OG会（稽古会）を開催し、諸先輩方に稽古をお願いして快い汗を流し、交流を

深めた。

〔記念寒稽古〕 1月15日（火）～18日（金）まで「厳寒に鍛える」をモットーに寒稽古を実施した。皆勤者は浅野優斗（中学2年・2年連続）、新谷理駆（高校1年）の2名であった。最終日の放課後に納会を行い、表彰。恒例のぜんざいをいただいたながら、参加者の健闘をたたえた。今後は新年度に入り、新元号となつてから標記の記念行事（演武会や稽古会等）を年内に計画中である。尚、昨年豪雨や災害が発生し、県内をはじめ全国に大きな被害をもたらし、今なお復興中という現状に鑑み、当初の計画を変更・縮小したことを申しつけ加えます。他にはOB・OGの「名札」の再整備（旧職員の佐藤秀志氏、現在は非常勤講師の山田宗則氏に依頼）と旧制金光中学校から現在までの「名簿」（段位、戦績等）も作成中ですので、ご協力をお願いいたします。

《少林寺拳法部》

11月25日に倉敷武道館で行われた岡山県少林寺拳法連盟有段者講習会に高1・高2の有段者3名が参加した。また、大会や昇級・昇段試験に向けて各自で練習した。

《ダンス部》

10月7日、イオンモール倉敷の中庭で行われた、『中庭マルシェ』にてダンスを披露した。12月16日、金光キッズフェスティバルに出場した。

《かるた同好会》

週2～3回、宗教教室で競技かるたの練習を行った。1カ月に1度の割合で、岡山県かるた協会長の長原先生に指導をして頂いた。1月19日（土）と2月9日（土）と3月16日（土）には、倉敷翠松高等学校と合同練習を行って技術の向上を図った。

《花道同好会》

毎週水曜日に宗教教室で兼信先生の指導の下、熱心に稽古した。

《バドミントン同好会》

2学期に新たな部員を迎え、高校2年生4名、高校1年生20名の総勢24名で、週1回の練習を楽しく続けている。多くの生徒が、ラリーが続くようになった。

《数学クラブ》

1月14日に岡山国際センターで行われた、数学オリンピック、ジュニア数学オリンピックに参加した。

学園だより

中学入学試験（適性検査型）

12月9日、189名が志願していた中学入試（適性検査型）が行われた。専願合格者は12月21日までに、併願合格者は2月8日までに手続きを完了した。

進路委員会

12月7～8日、高3では生徒の志望校について詳しく検討し、受験を控えてより良い指導ができるよう話し合った。10日に高1で、6日に高2でそれぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

個別面談

中高の全クラスで、個別に2者あるいは3者で行った。中学校では、2学期を振り返り冬休みの過ごし方について、高1や高2では進路を見据えての教科選択について、高3では進路委員会の結果を基に受験大学について相談した。エンパワメントプログラム 12月21日～24日、外国人7名を迎え、オンラインで発信型授業を行った。

終業式

12月22日、2学期終業式が中高合同で行われた。

ウィンターチャレンジ

12月26日～28

日、高1特別進学クラス全員と総合進学クラスの希望者を対象にウィンターチャレンジを実施した。3日間で集中して英国数の発展的な学習に取り組んだほか、自主学習と小テストにより基礎的内容を定着させた。

中学入学試験（教科型）

1月4日、237名が志願していた中学入試（教科型）が行われた。8日に合格発表が行われた。専願合格者は1月17日までに、併願合格者は2月8日までに手続きを完了した。2月10日には、入学までの指導や制服の採寸のための招集があった。

始業式

1月8日、3学期始業式が中高合同で行われた。校長式辞・高3生徒（眞田明日香さん）の決意表明・生活課よりの諸注意があった。また、フィンランドからの留学生サンニ・ツオミノンさんが1年の留学を、モンゴルからの留学生ニヤムバイル・ブヤンバトくんが半年の留学を終了し、それぞれお別れの言葉を述べた。

街頭交通指導

毎月1日は生活課の教員が、またその他にも定期的に学年団の教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

センター試験

1月19・20日に実施さ

《フィギュアスケート》

1/24～27に愛知県名古屋市で行われた平成30年度全国高等学校総合体育大会第68回全国高等学校フィギュアスケート競技選手権大会に高2木科雄登が出場し、4位となった。

また、木科は1/30～2/2に北海道釧路市で行われた第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会に出場し、個人9位、岡山県代表として3位の成績を収めた。

《アイスホッケー》

1/31に北海道釧路市で行われた第74回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会に高2山下虎太郎が岡山県代表として出場し、1回戦で滋賀県代表に0対9で敗れた。

れた大学入試センター試験には、高3生徒173名が出願し、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、川崎医療福祉大学、中国学園大学の4会場で受験した。



イギリス短期語学研修・オーストラリア姉妹校交流プログラム 第8回イギリス語学研修および3回目となるオーストラリアの姉妹校ラッドフォードカレッジとの交流(キャンペラを訪問)に向けて昨年11月から3月9日にかけて校内でオリエンテーション、事前学習発表会、昼休みや放課後を利用しての英会話の練習を行った。

防災教育 1月18日、高2は浅口市参与、地域防災マネージャー前川氏を講師に迎え、災害発生時の対応について学んだ。

3月15日の招集日に手続きを完了し、それ以後に9日間のスクーリングを受講した。

主権者教育 2月1日、高2は岡山県選挙管理委員 向原氏を講師に迎え、「18歳選挙権」に伴い、若者が政治に参画することを目指して、「知り、考え、意見をもち、論じ決める」ことの大切さを学んだ。

美術館見学 2月6日、中3は美術の授業の一環で、総合学習として、事前学習の後に倉敷美観地区の大原美術館・民芸館・自然史博物館などへ行き、古今東西の有名な美術品を鑑賞した。

学年集会 2月15日、中1は小体育館で学年集会を行い、保護者を交えてクイズや綱引き、合唱を行い、互いに交流を深めた。中2は2月14日に浅口市民会館金光で修学旅行事前学習発表を行い、学年の団結を誓うとともに今年度の総括の場とした。

高2芸術選択者発表会 2月16日、音楽選択者は練習の成果を浅口市民会館金光での演奏会で発表し、21日から26日まで、美術・書道の選択者はそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

卒業式 2月28日、第71回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、

中学生徒会長選挙 1月22日に行われた来年度の中学会長選挙の結果、会長には2年の薄井秀至君が、副会長には2年の柏原梨花さんと1年の宮原鴻志君が選ばれた。

学校保健委員会 1月25日、校医、やつなみ保護者会、教職員、生徒会の代表で構成される学校保健委員会が開催され、本校の健康実態や保健委員会の活動報告等がなされた。金光教LGBT学生会長 井上真之氏に「LGBTについて」という講演をしていただいた。

進路委員会 1月26日、高3ではセンター試験の自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

進路学習 12月14日、高1はベネッセコーポレーションの櫻井優一氏からポートフォリオ作成と活用についての説明を受けた。1月11日、高2はリクルートの佐々木太陽氏から自分に合った進学先の選び方についての講演を聴き、ワークシヨップを行った。1月29日、中1は高3生徒の話の聞き、普段の過ごし方や進路について考えることができた。2月5日、中2は11分野にわたる様々な職業の方から

206生徒が学園を巣立った。

◇教主金光様のおじい

本日はおめでとうございます。ただいま代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になる全てに礼をいう心をもって進んでいかれますようお願いさせていただきます。

教育相談保護者の会 3月2日、2名の保護者が参加し、講師の安原こずえ先生に「不登校解決の三つのくすり」というお話を聞き、交流を行った。



探究活動成果発表会・コミュニケーション

英語交流会 3月9日、高2探究クラスは、文系がスライド発表、理系がポスター発表の形式で、これまでの研究成果を報告した。また、高2はつまクラスの代表が総合学習の成果を、高1特進クラスの代表がコミュニケーション英語

グループ毎にお話を聞き、働くことの意味・楽しさ・苦労などを学び、これからの進路を考えることに役立てた。2月1日、中3は高校入学後の心構えや教科選択の説明を聴き、それを元に進路を考える機会を持った。

朝の寒心行 1月28日から2月2日にかけて、木綿崎ボランティア部が主催する寒心行があり、原田康史先生、弓削育之先生、藤原祐気先生、高司和道先生、垣内寿生先生、金光道晴校長が講話を行った。

AFS留学生 1月末でサンニ・ツオミネンさんが1年の留学期間を、ニヤムバヤル・ブヤンバトくんが半年の留学期間を終了した。学校の送別会は1月29日に行われ2月2日に帰国の途に就いた。

高校入学試験 1月31日に推薦入試(専願)と一般入試(専願・併願)が同時に行われ、それぞれに9名、93名の中学生が志願した。推薦と一般入試は2月4日に、それぞれの保護者宛に選考の結果が通知され、専願合格者は8日までに手続きを終え、10日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。進捗調整のためのスクーリングを、それ以後の日曜日と春休みに合わせて9日間受講した。併願合格者は、

の成果を発表した。さらに、高1総進クラスは、ALT・留学生と英語で交流会を行った。

防災訓練 3月11日、「3・11東日本大震災を忘れない」ために、例年通り防災訓練を実施した。地震を想定しての防災で、中学・高校一緒に避難した。全体集合の後、黙祷を捧げ、校長の話を伺った。

お祝い 平川真太郎先生には1月15日に長男のご誕生、お慶び申し上げます。

お悔やみ 前常務理事 西川洋氏には1月5日に、服部和人先生の御岳父には2月10日に、高2畠山祐汰くんには2月12日に、大西康史先生の御祖母には2月17日に、長岡康彦さん(高3保護者)には2月27日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

教室の窓から

松田 恵梨香

ラスト36日。義務教育修了式までの日数がクラスの人数になる頃、私のクラスでは日めくりカレンダーを作る。生徒たちは、「ラスト〇日」という言葉とともに、その日の目標や、思い思いのイラストを1人1枚描く。今年にはハイクオリティな美少女アニメキャラを描く男子たちが目立ったが、その他にも様々な作品が集まる。カラフルでかわいいイラスト入りのもの、四字熟語が力強く書かれているもの、黒ペンの文字のみのシンプルなもの……。カレンダーには生徒の感性がぎゅゅと凝縮されているような気がして、何度めくっても楽しい仕上がりだ。

この時期に、中3では「美術館見学」という行事がある。数年前、この行事で受けた衝撃を私は鮮明に覚えている。その頃の私は芸術作品を生徒に見せるということよりも、とにかく静かに見学させて時間通りに行動しなくては、ということまで頭がいっぱいだった。ところが、大原美術館別館に行ったとき、1人の生徒がある絵の前から動かなくなった。

である。他の生徒は、もう外に出てしまっている。「そろそろ行くぞ」と声をかけようとしたとき、彼がうっとりと言った。「先生、おれ、この絵みたいに卓球したい」その一言が、まさに衝撃だった。絵って、そんな風に見えるものなのか、と思った。今までの見方は、まるで違って見えた。絵の題は覚えていないが、何かふわふわした羽のようなもの、美しい鉱物のようなものが描かれていた。卓球の絵ではないのに、その絵が緩急自在な卓球のプレイスタイルを表しているように、私にも見え始めたのである。絵の見方も、1年間担任をしたその生徒がそんな見方をするということも衝撃的で、私には物事のほんの一部しか見えていないのだと痛感した。

カレンダーの絵や、学級日誌の一言や、友達同士の会話の中……。何気ない一コマに、授業ではわからない生徒の考えや感じ方が表れている。残りの日々で、どれだけ見逃さずキャッチすることができるだろうか。年度末の日々は本当に慌ただしく、バタバタしている。生徒とのやりとりも、提出すべきものの確認に追われている。しかし、カレンダーをめくる瞬間に、毎朝はつとめる。1日を大切にしながらは、日々は、あつという間に過ぎていく。

編集後記

「平成最後の」という表現を今年度は非常によく耳にした。当然だろう。30年振りに元号が変わるのだから。不思議なもので、「最後の」という言葉が頭に付くだけで、そこはかとなく掛け替えのない感じが生じる。例えば、「平成最後のひな祭り」。去年とも来年とも違う趣が加わったように響くのではないだろうか。

いや、内実は何も変わらないのだから、あくまで表現上の修辭に過ぎない。そう考える人も少なくないかもしれない。わざわざ「最後の」と言う掛け替えのないものなのだ。そういう向きもあるだろう。とはいえ、あえて「最後の」と呼ぶことで、それぞれの行事や出来事を特別なものと位置づけ、大切にしたいという姿勢は、なかなかには好ましいものではないかと思う。

学園ではつい先日、「平成最後の卒業生」が巣立って行った。このやつなみも「平成最後の号」となる。そして、いよいよ再来月には新元号へ。まだ見ぬ新しい時代が素晴らしいものになることに期待したい。

平成31年3月7日印刷

3月15日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会

印刷所

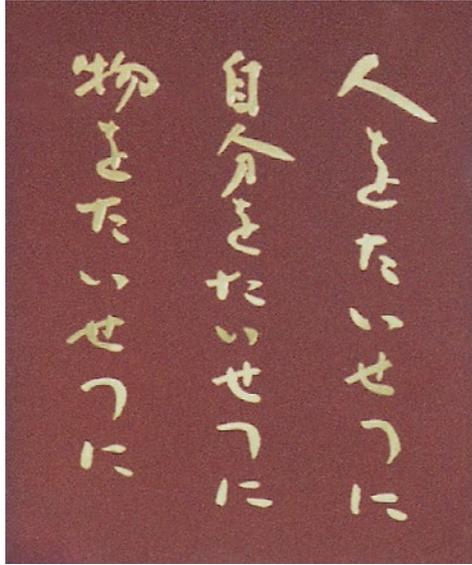
倉敷市船穂町船穂二〇九五―一

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会

高2 芸術選択者発表会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net